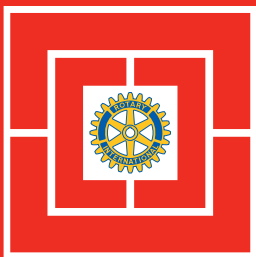


2008 2009

# 2008年国際協議会

2008年1月13日～20日 | 米国カリフォルニア州サンディエゴ

講演集



# 目次

<b>夢をかたちに</b> .....	<b>1</b>
李東建 RI会長エレクト	
<b>2008-09年度会長の強調事項</b> .....	<b>4</b>
ウィルフリッド J. ウィルキンソン RI会長	
<b>クラブ・リーダーシップ・プラン：消滅させることなく採り入れよう</b> .....	<b>7</b>
レイ・ヒギンボサム 元RI地区ガバナー	
<b>ロータリーの会員増加の要素</b> .....	<b>10</b>
クリフ・ダクターマン 元RI会長	
<b>今日のロータリー財団：ミシガン湖からの展望</b> .....	<b>14</b>
ロバート S. スコット 財団管理委員長	
<b>2008-09年度の財団の目標</b> .....	<b>18</b>
ジョナサン・マジニアベ ロータリー財団管理委員会委員長エレクト	
<b>ロータリー・センターの持つ影響力</b> .....	<b>22</b>
ジネット・クロエス 元ロータリー世界平和フェロー	
<b>ロータリー財団の未来の夢計画</b> .....	<b>25</b>
レイ・クリンギンスミス 2008年ロサンゼルス国際大会推進委員会委員長	
<b>人道的補助金と資金管理</b> .....	<b>29</b>
マーク・ダニエル・マローニー ロータリー財団管理委員	
<b>RIのリソースを最大限に活用するには</b> .....	<b>33</b>
ベルナルド・ローゼン RI理事	

**青少年に対するロータリーの取り組み..... 35**

アーヴィングJ.サニー・ブラウン  
2008年国際協議会モデレーター補佐

**職業奉仕の重要性について ..... 38**

渡辺好政  
RI理事

**ロータリーの公共イメージ.....41**

ウィリアム B. ボイド  
元RI会長

**リーダーシップ ..... 44**

ビチャイ・ラタクル  
ロータリー財団管理委員

**会長の閉会の辞 ..... 50**

ウィルフリッド J. ウィルキンソン  
RI会長

**会長エレクトの閉会の辞.....52**

李東建  
RI会長エレクト

**[配偶者セッション]**

**私の歩んだロータリーの旅路..... 54**

ローナ・ボイド  
RI会長の配偶者

**ロータリー配偶者の役割 .....57**

ジュリエット・リズレイ  
RI財務長の配偶者

**貧困を知ろう、一人ずつこどもの生活を変えていこう .....61**

ディーパ・ウィリンガム  
元ロータリー・クラブ会長

# 夢をかたちに

李東建

RI会長エレクト

国際ロータリーの会長として指名を受けたときのあの瞬間は、私の人生において最も喜ばしく輝かしいものでした。歴代のRI会長をはじめ、ロータリーの役員にはじめて選ばれた方なら、誰も私と同じような体験をされたのではないかと思います。その体験とは、大きな喜びと栄誉、そして期待を伴うものです。また、わが人生が永久に塗り替えられるであろうと予測されるものでもあります。長期的に考えますと、会長としての経験によって、私は自分自身が深く変わることを承知しております。短期的な視点から考えれば、私がこれから会長として直面する責務は、これまでの私の経験と想像を超越するものであることを理解しております。

これは、新しく地区ガバナーとなられる皆さんにとっても同じです。ロータリアンとして、私たち一人ひとりにできることは数多くあります。ロータリー歴の長い私たちは、ロータリーの力をよく理解しています。一人の力が及ぶ範囲は、ささやかな形で細々とした変化をもたらし、せいぜい数人、あるいは数十人の人々を助けることです。しかし、結束すれば、私たちの力は強まります。力を合わせれば、地球規模で長期的な変化をもたらすことが可能になります。私たちが一体となると、成し得ないことなど何もありません。

しかし、ロータリーを通じて私たちにもたらされる力の意味を真摯に受け止めるなら、このような無限の可能性にはそれに匹敵する責務が伴うことも理解しなくてはなりません。毎年、各クラブにおいて、私たち会員は持てる時間と技能と資金をどのように生かすのが最善であるかを決めます。この決断は、必ずしも簡単明瞭なものではありません。是非を問うような単純な問題ではないからです。これは、助けを最も必要としているのは誰か、私たちが最大の力を発揮できる対象となるのは誰かといった複雑な問いに基づく決断です。私たちはリソースを効果的に使い、奉仕の及ぶ範囲を最大限に広げたいと考えます。心に訴えかけるようなニーズは、私たちの関心を引きますが、その中でも、私たちは常にバランスを念頭に置き、ロータリーの投資に対して最大の恩恵が期待できるプロジェクトを探します。賢明な判断の下に、ニーズを調査し、よく理解した上で、リソースを慎重に用いるなら、私たちは最大の力を発揮し、最大の善を成すことができるでしょう。

最大の善を成し、ほかのロータリアンにも同じことを実現してもらうよう意欲を喚起すること、これがロータリーのリーダーとしての責務です。究極のところ、奉仕プロジェクトを成功させる責務は、個々のクラブにあるのです。地区ガバナーやシニア・リーダーの仕事は、クラブが賢明な形で奉仕活動に集中できるよう、導き、やる気を起こさせ、励ますことです。そして会長エレクトとしての私の責務は、就任年度にやるべき仕事を定義するため、年度のテーマと奉仕の強調事項を選ぶことです。

個々のクラブが実施するプロジェクトを決めるのと同様に、会長エレクトが強調事項を決める仕事も大変重要な決断を迫られるものです。私はこれに何カ月も費やしました。過去の会長の強調事項を慎重に検討し、このような強調事項から派生したプロジェクトのうちのいくつかに焦点を当ててみました。水、識字率向上、保健と飢餓救済、これらは、ここ数年にわたって永らえてきたロータリー奉仕の分野です。その理由は、これらの分野が、地元のロータリー・クラブが個々に、あるいはほかのクラブと協同でプロジェクトを行うのに最適なものであるからです。また、これらの分野に関して、私たちにはこれまで蓄積してきた豊富な経験と専門知識があります。従って、ロータリーが投資するに賢明な分野であると言えます。つまりは、既にあるリソース

を最大限に生かすことのできる分野なのです。これらの強調事項は継続していくべきでものであると私は頭の中で知りながら、一方で、私の心はほかの方向に引き付けられていきました。それは、強調事項の候補を検討しているときに、ある数字に遭遇したのがきっかけでした。それは3万という数字です。毎日、避けられるはずの原因で命を落とす5歳未満の子供の数でした。最初、私は、そんな馬鹿な、一桁か二桁、間違っただけ追加されたものに違いないと思いました。もしかしたら、一日ではなく、一カ月か一年の間違いかもしいかなとも考えました。この21世紀にあつて、貴い子供の命が毎日3万も無駄にされているなどということは、到底信じられないことでした。しかし、その数字が間違いではないと知ったとき、なぜこのような事実が存在するのかと自問せざるを得なかったのです。

その答えは数字よりもっと残酷なものでした。子供たちは、医薬品やワクチンや蚊帳などの基本的な物資がないために、肺炎やはしか、マラリアという治療可能な病気で死んでいくというのです。あるいは、一袋10セントで購入できる経口保水塩がないばかりに、下痢性の疾患で死んでいくというのです。飲むにも、体を洗うにも、汚水しかないために、毎日、何千人もの子供たちが、死んでいくというのです。治療可能なはずの病気も、不衛生な環境と栄養失調とが相まっては、子供たちの命を奪う不治の病となります。教育を受けられないがために極貧の連鎖を断ち切ることのできない家族のもとに生まれたばかりに、生きながらえない子供たちもいます。これらの子供たちは、水、保健と飢餓救済、識字率向上の分野のニーズが満たされていないがゆえに、命を失っています。

これが理解でき、この愕然たる数字の裏にある問題の根源を理解できたとき、私にはやるべきことが見えてきました。2008-09年度、ロータリーは、過去何年間にも及んで継続されてきた奉仕の強調事項を引き継ぎます。その強調事項とは、私たちが着実に知識と経験を積み重ねてきた、水、保健と飢餓救済、識字率向上です。しかし、皆さんの就任年度に私が願っているのは、これらの各分野において子供たちに光を当て、世界の子供の凄まじい死亡率を低下させる活動に力を注いでいただくことです。2008-09年度、どうか世界中の子供たちの「夢をかたちに」していただけるようお願いいたします。これが私のテーマであり、皆さんへの挑戦です。

将来への希望とチャンスをお子様たちに与えることによって、彼らの「夢をかたちに」していくのです。私たちは、地域社会にきれいな水を供給することで、「夢をかたちに」することができます。安全な飲み水を提供するだけにとどまらず、子供たちの保健に取り組む衛生プロジェクトを実施するのです。公衆トイレの設置も飲み水の供給と同様に誇れる奉仕です。なぜなら、衛生設備の改善によって、水の汚染を防ぎ、水に関連する死亡率を低下させることが可能になるからです。

環境を整え、保健医療のサービスを受けられるようにすれば、子供たちは健康を得るチャンスを手にできます。これも夢をかたちにするに等しいのです。蚊帳、経口保水塩、ビタミン、ワクチンといった実に基本的な物資が、子供たちの健康を守る上で、どれだけ大きな役割を果たせるか計り知れません。それに、専門の助産士、簡易診療所、学校給食、看護師の訪問検診を加えることができれば、どれほどの改善につながることでしょう。このように誠に簡単な援助で、子供たちの命が救われるのです。

2008-09年度、一人でも多くの子供が学校へ通えるよう助けることによって、私たちは彼らの「夢をかたちに」します。命をも奪うほどの赤貧の連鎖を断ち切る方法は、教育をおいてほかにはありません。

子供の死亡率が開発途上国において最も高いのは事実ですが、どのロータリー地区のどのクラブも、子供の命を救うことができます。シートベルトや煙探知機がないばかりに、毎日、世界のどこかで子供が死亡しています。安全な遊び場がないために、死亡する子供もいます。医療サービスを受けられないほどの貧しさゆえに、死ぬ子供もいます。誰も助けられないから死ぬのではなく、誰も助けられないから死ぬというケースのなんと多いことでしょう。しかし、ロータリアンである皆さんと私にとって、助けることは得意分野です。

されば、地元をはじめ遠く離れた地域社会も含めて、このようなニーズに目を見開くことは、私たちの使命です。私たちの仕事は、必要な助けを提供するために、クラブ同士が協力し合うことです。私たちの仕事は、「夢をかたちに」することです。私たちは、安全で幸せな子供時代、健康が損なわれることなく続く子供時代、その頃の彼らの「夢をかたちに」してやるのです。なぜなら、世界の子供はわれらの子供だからです。私たちの仕事は簡単なものです。心と知恵と魂とを注ぎ、命を救うことです。2008-09年度、私たち一人ひとりがこの仕事を全うするなら、年度の幕が降りるとき、私たちは素晴らしいことを達成しているに違いありません。

# 2008-09年度会長の強調事項

ウィルフリッド J. ウィルキンソン  
RI会長

今日こうして、新しい次期ロータリー地区ガバナーの皆さんを前にお話しできることを、大変嬉しく、また、名誉なことであると感じております。ここから皆さんを見回しますと、私自身が初めて国際協議会に参加したときのことが思い出されます。それは、皆さんにとっても同じであると思いますが、生涯忘れ得られない体験です。

国際協議会への初めての出席は、いわば初めて山の頂に上り詰め、そこから下を見下ろすようなものです。近すぎて、あるいは遠すぎて、それまで見えなかったものが、突然、視界に飛び込んでまいります。全貌が見渡せる位置に置かれて、すべてがどのようにかわりあい、機能しているのかが見え始めます。地元にとどまっていたなら決して持つことができなかつたはずの展望が開けるのです。

しかし、正直なところを申しますと、国際協議会への初めての参加が登頂を果たしたように感じられるのは、このとき限りです。サンディエゴへの旅で皆さんの旅路のご苦労が終わったわけではなく、これはほんの始まりに過ぎません。

昨年、私のチームとなるガバナー・エレクトの皆さんを前に講演いたしました際に、ともに旅路を開始するにあたって、私は全員に、エレクトと地区に対して一つの約束をしていただきました。その約束とは、ロータリーに「イエス」と答え、喜んでロータリーにすべてを捧げる年にするのだと宣言するものでした。クラブと地区と地元地域と世界のために、あらん限りの力を出し尽くす年、全身全霊で超我の奉仕を体現する年にするという誓いしました。

今日、私は皆さんにも同じ約束をしていただきたいのです。2008-09年度をロータリーに捧げる年度にするという決意を固めていただきたいのです。「夢をかたちに」する年度にいただきたいのです。

毎年、すべての地区ガバナーには多くが求められます。クラブを鼓舞し、意欲を喚起し、行動へと駆り立てるよう求められます。また、各クラブの最高の力を引き出し、できる限りの成果を生み出すよう求められます。

李会長エレクトも同じものを皆さんに求めていらっしゃると思いますが、同時に、それ以上のもの、もっと具体的なものを求めておられます。それは、水、保健と飢餓、識字率向上というロータリーの強調事項を通じて、一体となり世界中の子供の死亡率を低下させることです。これは言うまでもなく、大変難しい注文ではありますが、ロータリーが大いに貢献できる分野であることも疑問の余地がないものです。

数カ月前、平和フォーラムに出席するために、ブルガリアの首都ソフィアを訪れたときのことで、市内を歩いておると、ソフィアの人口が120万人だと誰かが言っているのを耳にしました。ご存知の通り、これはロータリーの会員総数に相当する数です。私は広大な都市を見回しました。歩道を行く人々、買い物をする人々、会社や学校へと向かう人々、日常の暮らしを営む人々の姿を眺めながら、私はロータリーの大きさはこの都市に匹敵するものなのだと実感しました。すべてのロータリアンがひとところに集まったとしたなら、ヨーロッパの一都市を埋め尽くしてしまうことができるのだと、そのとき悟ったのです。

思うにこれはなかなか感慨深いことです。皆さんが来たる年度に控えている責務の重さを考えるとき、これだけ多くの人々の支援があるのだということを思い起こしていただければ、少しは荷が軽くなるというものではないでしょうか。皆さんの背後には、世界の200以上の国々と地域に、ロータリアンとしての技能と能力と資質を兼ね備えた120万人の人々がついているのです。

ほかにも皆さんを支えてくれるロータリー財団という存在があります。海を隔てたクラブ同士が、互いの能力とリソースとを生かし合い、協力して活動することを可能にするために、補助金を用意して支えてくれる存在です。そして、専門知識と経験を有する研修リーダーおよび水、保健と飢餓、識字に関連するプロジェクトを長年にわたり行ってきた多数のロータリアンの存在があります。自らの仕事をできる限り効果的に行うために、こういった支援源の力を借り、知識を蓄えることです。

ロータリーでは常日頃から、野望と現実、頭脳と心、小規模なプロジェクトと大規模なプロジェクトとのバランスを図る必要性について話し合われています。そのバランスを見事に図った例が、2008-09年度李会長エレクトのテーマと強調事項ではないでしょうか。世界中の子供たちすべてを救おうと言っているのではありません。それは私たちの力の及ばない願いです。しかしながら、私たちの力の及ぶところにあるのは、あらゆる支援源を駆使して、力の限りを尽くし、できる限り無駄死にをなくすことです。クラブにおける奉仕のやり方を変えるのではありません。強調事項を慎重に方向付けて考えることによって、子供たちのために貢献できる場所に焦点を当て、私たちのエネルギーを注ぎます。私たちは、通曉している水、保健と飢餓救済、識字率向上という強調事項を通じて、これを実践するのです。

2008-09年度の強調事項の一番目は、ここ数年前から引き継がれてきた水です。これは、皆さんが直面する課題にとって最も重要なものです。安全な水がないことが直接の、あるいは間接的な原因となって、毎日6,000にも上る5歳未満の子供が、予防できるはずの病で死亡しているをご存知の方もいらっしゃるでしょう。この問題の取り組み方はいく通りもあり、皆さんが熟知しているやり方もあるはずです。私たちは、浄水装置を設置し、井戸を掘り、ポンプが故障したり、ほかの部品がなくなったりした途端に水が枯渇してしまうということのないよう、地域の地域社会が各プロジェクトに投資するよう確認します。また、一人でも多くの人が安全な水を利用することができるよう、学校、病院、診療所に水供給装置を取り付ける手伝いをします。

これと同様に、いや、それ以上に重要なのが、水の汚染を防ぐ衛生プロジェクトです。村や都市部の貧民街の多くには、ごみや排泄物の処理システムが設けられていません。下水溝から病気が広まり、汚染は地下水に浸透します。ユニセフの調べでは、26億の人々がトイレのない暮らしをしています。これが子供の健康にどれほどの影響を及ぼすかは、計り知れません。

ときとして、特に開発途上国においては、簡易トイレの設置といったようなプロジェクトが、水を供給するプロジェクトに比べて、さほど重要でないと思なされたり、そのようなプロジェクトにロータリーの歯車をつけるのは恥辱であると思なされたりする傾向さえ見られます。しかし、私はここではっきりと申し上げたいのです。衛生プロジェクトは、クラブが実践できるプロジェクトの中でも最も尊いものです。このようなプロジェクトは、トイレのない生活を送っている26億人にとって、生活の質を大幅に改善するだけでなく、生き延びるチャンスを与えるものです。ですから、単独でも協同でもかまいません。すべてのクラブが誇りをもって、こういったプロジェクトを実施すべきなのです。

二番目の強調事項である保健と飢餓、これは皆さんに課せられる仕事を考えますと、特に重要なものといえましょう。この強調事項においてなすべきことを理解し、子供の死亡率を低下させるという目標をどのように達成すべきかを理解するには、私たちは子供の命を奪うものが何であるかを知る必要があります。これは問いかけるにはあまりに暗い質問ではありますが、死を食い止めるためには、原因を理解しなければならないのです。

10人中7人の子供が、病気で死にます。このうちのほとんどが予防可能な病気であり、多くの場合、水や大気の汚染、栄養失調といった環境的な要因が死を招いています。慢性的に栄養失調だったり、寄生虫で弱っている子供がマラリアや肺炎にかかったりした場合、健康な子供より生存率ははるかに低くなります。世界の54パーセントの子供の死因は、栄養失調に関連しています。

幼稚園に上がる前に死ぬ子供の3分の1は、子供の病気の「ビッグ・スリー」と呼ばれる急性呼吸器感染、下痢性疾患、マラリアが原因です。そのうちの4分の1が、生後一週間にも満たないうちに死亡します。死因は、出産時に経験ある助産婦がいなかったり、不衛生な小屋で出産したり、お産直後に適切なケアが受けられなかったりすることによるものです。

ここで、三番目の強調事項、識字率の向上が必要となります。なぜなら、子供の健康に影響する問題の多くが知識と教育の欠如によるものであるからです。教育を受けた母親を持つ子供の寿命が教育を受けていない母親を持つ子供より長いのは、世界中のほとんどの国に共通する事実です。教育は世代から世代へと受け継がれていく子供への贈り物です。親が教育を受けていれば、子供に何が必要であるかが分かります。また、子供を養う能力を備え、医療や栄養や安全な環境など、子供が必要とするすべてを与えてやることができます。

ここでも、私たちが取り組むには大きすぎる問題のように感じられますが、そんなことはありません。これは、比較的少ない投資で多くを達成できると同時に、単発の財政支援よりの絞った賢明な援助がものを言う分野です。

ロータリーが本領を發揮できる分野と言えます。地元精通し、世界的なつながりを持ち、思いやりの精神を貫く私たちは、必要な場所に適切な援助を送ることができるのです。

次期ガバナー・エレクトとして、今、皆さんがやるべきことは、ロータリーのすべてを活用し、最大限のものを引き出すために、問題の理解に努め、地区内のニーズとリソースについて話し合い、互いに協力し合うことです。

李会長エレクトが皆さんの前に差し出した子供の死亡率の低下という課題は、巨大なものです。しかし、子供を死に至らしめる主な原因はすべて、これまで何年にもわたってロータリアンが貢献してきたいわば得意分野に属するものであることを考えれば、達成可能なものです。ここでもう一度、私たちにはすべての子供の命を救うことはできないと声を大にして申し上げておきます。大半の子供たちを救うことさえできません。しかし、私たちは確実にいくつかの命を救うことができます。

この会場にはお子さんのいない方もいらっしゃるかもしれませんが、皆さんに想像していただきたいのです。自分の子供の命を救ってくれた人に対してどのような感情を持たれるでしょうか。そして、私たちがこの偉大な仕事の成果をわずかでも上げることができたとしたなら、この地上に生まれたことが無駄ではなかったと、きつと思えることでしょう。

# クラブ・リーダーシップ・プラン： 消滅させることなく採り入れよう

レイ・ヒギンボサム  
元RI地区ガバナー

「変化」という言葉をますます耳にするようになりましたが、これは私たちがまさに変化の時代に生きているからです。キャリアの大半を通じて、私は大組織に急速な変化を導入するという仕事に携わってまいりましたが、この経験を通じて、私はあることに気づきました。それは、変化を受け入れる組織は繁栄の可能性が高く、変化を避けようとする組織、または変化に取り残されてしまった組織は、次第に忘れ去られていくということです。

このような現実を思い知らせるかのようになり、ある有名なビジネス経営大学院は、その卒業生に「Adapt or Perish (適応するか、滅びるか)」と刻まれた恐竜の形をしたブロンズ製の文鎮を贈っているそうです。これは、組織が今日的な意味を持ち続けるためには、進化し続けていかなければならないことを卒業生たちに伝えているのです。

ロータリーにとっての課題は次のようになります。「社会の急激な変化に我々は適応していくべきか、それとも恐竜の仲間入りをするか」

先のモットーが示すように、肝心なのは適応であり、新しいアプローチを開発することです。換言すれば、革新か、死か、ということです。「生き残るには変化という代償を払わねばならない」とは、ウィンストン・チャーチルの言葉です。

21世紀のはじめにあたる現在、現在社会の特徴を成す急激な変化については、あちこちで書かれています。世界の国々は、政治、経済、社会構造の劇的な転換期を迎えています。毎日の生活にも情報が氾濫し、ニュース、広告、インターネットから個人が得られる情報量には、まさに驚くべきものがあります。私たちは、情報時代から知識の時代へと移行しつつあるのですが、「知識の時代」を明確に特徴づけるもの、それは終わりのない変化です。「知識の時代」は、絶え間ない変化の氾濫をもたらし、また、その周期もさらに加速しています。次の事実について考えてみましょう。

- 知識ベースは2、3年ごとに倍増している。
- 毎日、7,000の科学的・技術的論文が発表されている。
- 大学の新生がそれまでに見たり読んだりした情報の量は、その祖父が生涯に経験した情報量よりも多い。
- 今後30年間に起こる変化は、過去3世紀に起こった変化と同じくらいである。
- ロータリーはこうした社会的変化の影響にさらされており、私たちはこれに対応しなければならない。

こうした状況を受けて、国際ロータリーは、奉仕の第二世紀に当組織を導いてくれるビジョンと長期計画の立案を開始しました。

クラブ・レベルでの支援を提供するために、クラブ・リーダーシップ・プランが作られました。これは地区リーダーシップ・プランの延長であり、ロータリーの安定と成長、そして成功に極めて重要なものです。クラブに指導のテクニックを提供するとともに、クラブの活動を導く管理的枠組みとなるものです。

クラブ・リーダーシップ・プランが、四大奉仕部門に取って代わる新しい委員会構成であると言われるのをしばしば耳にしますが、これは悲しいことです。意図するところはそうではなく、四大奉仕部門はこれからもロータリーの哲学的な礎石であり続けます。クラブ・リーダーシップ・プランは、単なる新しい委員会構成に留まるものではありません。クラブが望むなら、プランを実施しても委員会構成は以前のままに残すこともできるのです。

クラブ・リーダーシップ・プランの本質は、いくつかの重要なプロセスにあります。クラブ・リーダーシップ・プランの目的は、クラブのレベルでロータリーを強化することです。

- プロジェクトおよび意思決定の継続性
- 意思決定と目標設定に関する見解の統一
- 奉仕と親睦活動のバランス
- 十分な研修を受けたクラブ指導者層の増大
- 会員全員が積極的に参加することへの期待
- 全会員への継続教育の機会
- クラブ指導者の引継ぎ計画

クラブ・リーダーシップ・プランは、各クラブが独自の特性（アイデンティティ）を築くための土台を提供します。施行の段階は、すべてのロータリー・クラブが効果的となるために欠かすことのできないリーダーシップのプロセスなのです。皆さんも、ビジネスではこれらと同じ重要なリーダーシップのプロセスを踏んでいるものと存じます。クラブは、独自に選んだ方法でこれらに取り組むことができます。柔軟性のあるクラブ・リーダーシップ・プランは、ロータリー世界のどこでも実施することができます。プランは、ロータリーの創立以来、大きな成功を取っているクラブが用いてきた最善の方法（ベストプラクティス）に基づいています。

クラブ・リーダーシップ・プランの採用においては、現在、興味深い段階を迎えています。プランについて知り、実施しているクラブも多くありますが、まったく採用を考えていないクラブも多くあります。採用しているクラブも、毎年、プランを見直す必要があり、これは終わりなき旅のようです。

年に1人か2人の会員が純減して、いつの間にかひっそりと消滅していくクラブのことをよく耳にします。こうしたクラブの指導者の多くは、スキルと洞察力を備えておられるがゆえに、地域社会のビジネスで成功した方々です。もし、自分たちの事業が縮小しているとしたら、この方々は、ビジョンとキープロセスを見直し、それが時代遅れのものにならないようにするはずで、皮肉なことに、私たちはビジネスに有能な男女を会員として迎え入れているにもかかわらず、クラブの指導という点では、こうしたビジネスのスキルの活用をあまり奨励していません。多くのクラブは「いつもそうしてきたから」的なアプローチを好んでいます。

過去12年間、ロータリーは、会員を惹きつけ、維持するために甚大な努力を傾けてきました。多くの新会員を入会させることができた一方で、その多くが1年目で退会してしまうのも事実です。なぜ新会員を維持できないのでしょうか。これには、クラブ指導者の質が大きく影響する、と私は信じています。効果的な指導者は、クラブの例会の雰囲気をつくり、進路や数々の目標を定め、成果をねぎらいます。

次にその一例をご紹介します。最近、30代前半の聡明で人好きのする青年がロータリーに入会しました。私は彼に、会員となったことに満足していないと打ち明けられました。リーダーとしてのノウハウを学び、人脈を

つくり、年長の会員を恩師とし、そしてもちろん、世界でよいことをするためのプロジェクトに参加する機会を望んでいたそうですが、私たちは彼の期待に応えていません。彼はクラブに留まり続けるでしょうか。いつの日かロータリーで偉大な指導者となる資質とエネルギーを備えた青年ですから、とどまってくれることを望んでいます。しかし、彼の捧げる時間や熱意と引き換えに、彼が望むものを与えなければ、彼は退会を決意することでしょう。

この偉大なる組織の未来は、クラブを導く指導者、つまり皆さんの地区のクラブ会長エレクトの肩にかかっています。必要な指導力は、既に会員の中から得ることができます。こうした指導力が、クラブ発展のために集中して活用されるよう、私たちは手続きを導入せねばなりません。クラブ・リーダーシップ・プランが形成されたのは、まさにこの理由からなのです。

来る年度にクラブを効果的に導くことは、地区指導者である皆さんの役割です。「夢をかたちに」という李東建会長エレクトのテーマを支援する一つの確かな方法、それは、地区内のクラブがこのプランを導入するよう奨励することです。

リーダーシップのベストプラクティスを伝え、支援することは、ガバナー・エレクトである皆さんの責務です。手段は整っています。あとは、導入を支援するために皆さんの助けが必要です。このチャレンジに立ち向かい、地区でのPETSでクラブ・リーダーシップ・プランを主要なトピックとして取り上げ、地区内クラブの指導者を助けながらプランの活用を自ら推進していただけるよう、皆さんにお願い申し上げます。皆さんにリーダーシップを発揮していただければ、会員を増やし、維持できる強くて効果的なクラブの伝統を作り出すこととなるでしょう。

組織改革は簡単ではありません。忍耐と粘り強さを必要としますが、生き残るためにはそうするしかありません。恐竜の辿った運命、「適応するか、滅びるか」を忘れないでください。

# ロータリーの会員増加の要素

クリフ・ダクターマン  
元RI会長

今、この手の中に美しい花があると言っても、皆さんには信じられないことでしょう。私の手には茶色い乾燥した種の入った袋しかありません。この種は美しくはありませんし、美しくするには、やらなければならない重要なことがあります。きれいな花を咲かせるには、これを植えて水をやり、十分な日光を当ててやらなくてはなりません。これと同じように、皆さんの地区のロータリー会員も、必要な段階を踏まなければ、花を咲かせることはできないのです。

国際ロータリーの指導者は、なぜ会員の増加と増強に常に重きを置いているのでしょうか。その答えは単純明快、会員の増加はロータリーの生存にかかわるものであるからです。組織は発展しなければ消滅に至るとは普遍的な公理です。美しい花束と同様、古くなった花を新しい花に差し替えなければ、その花束は枯れ果ててしまいます。誠に残念ながら、ほかの奉仕クラブは会員の激減に見舞われています。これは、国際ロータリーがたどってはならない道です。

皆さんは全地区を回る中で、「どのように会員を増加させるべきか」という質問に遭遇することでしょう。これに備えて、クラブの会員増加をどのように助けるべきかについてお話ししましょう。ロータリー会員の増加には3つの異なる方法があります。

1. クラブの新会員を求めること
2. クラブの現会員を保持すること
3. 地元地域で新しいクラブを結成すること

それでは、これらの3つの方法をクラブが実践できる具体的な行動計画について触れたいと存じます。

**1. 資格ある新会員を求めれば、ロータリーは発展します。**クラブは具体的な計画を持たなければなりません。その計画は、形がどのようなものであれ、測定することのできる目標を持つものでなければなりません。ただ単に「わがクラブはもっと多くの会員が必要である」というだけでは、目標でも計画でもありません。明確でなければならないのです。「わがクラブでは、毎月、1名の新会員をもたらす」と言うならば、これは測定可能で説明責任の問われるものですから、れっきとした目標となります。さて、この新会員をどのように見つけることができるでしょうか。

いくつかのチームを編成し、それらのチームを基盤として具体的な計画を打ち出すことができます。チームごとに集まり、ロータリーにふさわしい資格を備えた事業、専門職務、地域ボランティアの指導者について話し合います。その上で、企業や団体を訪問し、そこの指導者たちと話し合いを持ちます。独立した事務所を構えている人々や自宅で事業を行っている人々も候補に挙げられるかもしれません。また、第一線で活躍している地域社会のボランティア・リーダーであれば、事業や職業に関係なく、会員候補として真剣に検討するに値する人材であると考えべきでしょう。

もう一つは、ロータリー会員のいない企業に2人の会員を送り込み、候補者を探すというものです。ロータリーのことを知ってもらうために、その企業なり組織なりの代表者をゲストとしてクラブに招きます。

第三の計画は、毎月1度クラブ例会で、「ゲスト・デー」を設け、全会員がクラブ例会に友人や会員候補者を招き、プログラムを楽しみながらロータリーが地元で行っている善行について知っていただくというものです。

第四の計画は、ロータリー財団とRIプログラムの学友を中心とするものです。元国際親善奨学生や研究グループ交換チームのメンバー、あるいはロータリー会員だった人々を探し出します。これらの学友は格好な会員候補でありながら、ロータリーの会合に一度も招かれたことがないという学友が大勢いるのです。

もう一つの効果的な計画は、クラブ会員全員に個人的な知り合いのリストを作成してもらうことです。これには、会計士、弁護士、歯医者、医者、牧師、成人した息子や娘、会社の取引先や仕入先、保険会社の幹部、その他普段から会員がサービスを利用している人々が考えられるでしょう。このリストから、会員増強チームがクラブにゲストとして招いた人々が、会員候補となっていくケースも少なくありません。

退職したロータリアンを多数抱えるクラブであれば、彼らの現役時代の仕事を現在行っている地元の人物で、最適任と思われる人を挙げてもらうことです。その中から、短期間のうちに会員候補が出現するかもしれません。

地元地域の多様性に目を向けることも、方策として大切です。ロータリーがまだ浸透していない民族グループが地域に存在するかどうか。あるいは、これまでロータリーが会員を開拓してこなかった分野があるかどうかを考慮してみるべきでしょう。

女性の起業家や管理職およびロータリアン配偶者の方々と、会員の資格を備えた人物に積極的にアプローチすることも、可能性に満ちた方法です。地区内のクラブでいまだに管理職に就いているのは男性のみと思っているところがあれば、まずその考えを正すところから始める必要があるかと思われます。ビジネス界には、ぜひとも会員になっていただきたいような優れた女性たちが大勢活躍しておられます。それでもなお、これに賛同できないというクラブがあれば、会員としてふさわしい女性と男性の両方を集め、新クラブを結成すべきです。

ほかにも、適格なロータリアン候補を探し当て、誘う効果的な計画が存在することと思います。企業の重役などを務める方々と、ロータリーの会員となるに大変ふさわしいと思われる人物の多くが、会員となっていない理由の一つには、誘われたことがないからといういとも単純な理由があることは、周知の事実です。地区ガバナーとしての皆さんの仕事は、クラブが資格を備えた会員候補者を突き止め、正式に会員となるよう勧誘する具体的な計画を立てられるよう、実践的な方法を授けることです。それでは2番目の主題に移りましょう。

**2. 現会員をクラブにとどめることにより、ロータリー会員を強化することができます。** 商売においても、新しい顧客を開拓するより、お得意様が変わらぬごひいきをいただくほうがはるかに楽であるというのが常識となっています。ロータリーでは、毎年、15パーセントの会員が退会します。毎年、他界されるロータリアンがいることはいたしかたのないこととしても、ほかの理由でやめていく現会員をとどめるために、皆さんはクラブに対してどのような助言をなさるのでしょうか。多くのロータリアンが入会して1~2年以内に退会してしまいます。

会員維持の第一段階は、会員がクラブに入会したその日、もしくはそれ以前に始まります。ロータリーについての質の高いオリエンテーションは、必要不可欠です。新しい会員は、ロータリーについて厳かな紹介を受けるに値する人々であり、ロータリーの興味深い歴史や伝統、慣習に関する情報が伝えられるべきです。推薦者や相談者となる会員が、ロータリーの活動へと新会員を導きます。そして、私たちがロータリー家族と呼ぶ友人の輪に、新会員を招き入れなくてはなりません。

2番目に大切なのが、入会后直ちにクラブ内でやりがいのある有意義な仕事を新会員に与えることです。会員になると同時に、クラブの親睦と奉仕活動に参加していただくのです。新会員が、クラブで重要な仕事をし、役に立っていると実感し始めたとき、はじめてクラブに完全に同化し、本当の意味でロータリアンとなるのです。

会員維持に関する3番目の提案は、近代のテクノロジーが今日の事業および専門職務に携わる若い人々に及ぼす影響力に目を向けることです。21世紀の企業幹部に求められるものは、30年、40年前のそれとはまったく異なるものです。ノートパソコン、携帯メール、 아이폰をはじめ、さまざまなコミュニケーションの形態が開発され続けているなか、現代の経営者や企業幹部たちは1日24時間拘束され、即座の決断を迫られ、たとえ相手の会社が海の向こうにあったとしてもそれが障害とはならない時代です。「ロータリーの例会から戻ってからお返事します」というのは、もはや通用しません。このような時勢に、「100パーセントの出席率を求めます」と主張して多くの若い会員や会員候補を逃してしまっているクラブが、いまだに見受けられます。RI細則で規定されている出席率は、わずか50パーセントです。新世代をロータリーに迎え入れたいのであれば、古参者である私たちの多くがこれまでの考え方を改める覚悟を決めなければなりません。規定に多少の融通を利かせ、今日の経営者や職業人に求められる責務を大いに考慮する必要があります。

退会防止でもう一つ重要な要素は、古くから確立されたクラブの輪の中に、新会員が実際にどのくらい歓迎されているのかという点です。 毎回、長年気心の知れた会員同士でテーブルを囲み、新しい会員や候補者が来てもいっしょに座るよう声をかけることのないクラブがどのくらい存在するのでしょうか。どこかのクラブを訪問した際に「その席はご遠慮願います。チャーリーさんの席と決まっているんですよ。なにしろ20年間ずっと彼の席なんですから」などと言われたことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このような素晴らしい友情で結ばれた会員たちは、ほかの会員たちと親しくなる機会を逃し、排他的にしてクラブ全体の親睦に寄与していないことに気づいていないのです。新会員や訪問者は、そのうち自分たちがそのような親密なグループには入れてもらえないということを悟ります。そして、良きロータリアンになろうとしていた人がロータリーから離れていってしまうのです。

会員をクラブにとどめられないもう一つの重要な要因は、クラブ例会、奉仕活動、親睦行事の質の問題です。忙しい中、わざわざ時間を割くに値しない内容であるためです。多忙を極める職業人の関心をつかんでおきたいなら、クラブ例会は、興味深く、楽しい、ためになるものにしなければなりません。退屈でまとまりのない例会を開いているクラブが、会員維持の深刻な問題に突き当たるのは当然の結果です。ロータリアンにとって毎週楽しみに例会に臨めなくなったなら、例会に出席する代わりに、仕事や家族や地域社会のほかの責務を引き受けるということになってしまいかねません。

もう一つやるべきことは、転勤や引越などにより退会する会員がいれば、移転先のロータリー・クラブに入会できるよう計らうことです。瑕疵なきロータリアンがほかの土地に移転する場合、私たちに移転先のクラブにその旨を知らせる責務があるのです。この会員の氏名をほかのクラブに知らせることによって、自分のクラブから会員が1名減ったとしても、その会員をロータリーにとどめることができます。

最後に、退会につながる兆候を注意深く観察する必要があります。頻繁に例会を欠席したり、親睦行事に顔を出さなかったり、奉仕活動や募金活動に関心を示さなかったり、家族や仕事の問題を抱えているのが明らかであったりする場合は、退会を考えている兆候とみることができます。このとき、クラブの指導者が親身になって話を聞いてあげるなら、退会を未然に防ぐことができるかもしれません。思いやりをもって話し合うだけで、退会を避けられる場合もあるのです。それが本当のロータリー家族の精神というものです。それでは、ロータリーの会員を拡大するための3番目の方法について考えてみましょう。

3. 地元地域で新しいクラブを結成することができます。皆さんも耳にしたことがあると思いますが、「もう一つのクラブを結成するには、私たちの町は小さすぎる」ですとか、「以前に試みたことがある」ですとか、あるいは「資格ある人物がいれば、うちのクラブに入ってもらおう」と言う方もいらっしゃると思います。しかし、将来のロータリー会員基盤を強化するのに、このような台詞は必要ありません。なにも従来と同じようなロータリー・クラブを作らなくてもよいのです。地元で新しいタイプのロータリー・クラブを設立することを考えてみてはいかがでしょうかでしょう。

たとえば、全員が40歳未満の企業幹部や専門職に携わる会員から成るロータリー・クラブというのはどうでしょうか。元ローターアクター、研究グループ交換の元チームメンバー、財団学友などに加えて、従来のクラブ例会の時間ではスケジュールの調整がきかないという若い企業の幹部などを中心として結成するのです。

地元地域の一角を占める民族グループによる新クラブというのも一案です。そこに経済的、文化的に共通点を持つ人々で、これまで従来のクラブからは誘われたことのなかったような会員を募るのです。

また、女性会員を受け入れてこなかった地域に男女混合のクラブを新しく結成するというのも一考に値します。

昼食や夕食の例会に出席できない人々を対象としてクラブを結成することも可能です。朝食クラブや午後例会を持つクラブです。弁当持参で食費をかけないクラブというのも考えられます。ゴルフ開始前の1時間を利用して土曜日にゴルフコースで例会を開くクラブがあってもよいでしょう。従来のロータリアンと同じように奉仕や親睦に関心を寄せながらも、ロータリー・クラブの例会時間や形に関してまったく新しい考えを持っている若い世代もいるはずで

デパートや空港ビル、高層オフィスビル、大学の構内にクラブを作ることもできます。現在あるクラブと同じものを作ろうと考える必要は、ロータリーの新世紀には、新しい親睦と奉仕の構想を描く必要があるのです。

ロータリーの会員をどのように増やすことができるかという最初の質問に戻しましょう。あの乾燥した茶色い花の種を思い出してください。その種は植え、日光に当て、雑草を取り除き、手をかけてはじめて花に成長するのだと申しあげました。ロータリーも、大事な手続きを踏まなければ育ちません。クラブは新会員を見つけ、勧誘する計画を持たなければならないのです。クラブは、現会員が退会してしまうことのないよう、効果的に機能するのではありません。そして、地域社会の未踏の場所にまで乗り出し、新しいクラブを結成しなければなりません。

ロータリーの発展を期すなら、私たちは行動を起こさなければならないのです。きれいな花を咲かせたいなら、行動を取ることです。(演台の陰から花束を取り出し) もはや国際ロータリーは、世界的な会員の緩やかな下り坂に甘んじてはなりません。ロータリーは、あの茶色の種のように花を咲かせることができます。

朋友の皆さん、皆さん方はリーダーです。皆さんの仕事は皆さんの手の中にあります。会員増強は皆さん次第なのです。究極的な質問は、皆さんがこの仕事を受けて立つ覚悟ができてきているかというものです。私は、皆さんが覚悟を持って飛び立ってくれるものと信じます。

# 今日のロータリー財団：ミシガン湖からの展望

ロバート S. スコット  
財団管理委員長

去る7月、ビチャイ・ラタクルRI元会長がロータリー財団管理委員長の職を辞任された時、大変驚き、やや困惑もいたしました。また、それと同時に、リーダーとしてのこの大変重要な役割が、突然、私にふりかかってくることになりました。幸い、協力と継続性が重要であることを理解しておられるビチャイ元会長は、財団の年度目標を立てる際に私の意見を積極的に取り入れてくださいました。ですから、委員長の座を退かれたときにも、健全でダイナミックなロータリー財団、私が心から信じ、支えることのできる財団を継承することができたのです。

私たちのロータリー財団が、再び大成功の年度を取めつつあることをここにご報告でき、大変嬉しく思います。6月まではまだかなり時間がありますが、年次プログラム基金への寄付は、昨年同時期を10パーセントほど上回っています。恒久基金への寄付も上向きです。ポリオ・プラス・プログラムについても大変良いニュースがありますが、これについては明日の朝に詳しくお話いたします。

去る10月の管理委員会会合では、記録的な数の競争制マッチング・グラントが承認され、補助金申請の数も概ね増え続けています。保健、飢餓追放および人間性尊重（3-H）補助金の申請数も過去最高を記録し、また、申請の質も前よりずっと良くなりました。

2007-08年度には、研究グループ交換プログラムで他国へ赴いたチームの数が最高記録となったと同時に、国際親善奨学生の数も増え、ここ数年間の減少傾向をくつがえす結果となりました。また、国際問題研究のためのロータリー・センターは、平和実現の可能性を高める新たな希望の光となっています。

ここで、ロータリアンとして私たちが分かち合う目標、「平和の願いはきっとかなう」についてお話ししたいと思います。ニック・レアードという名の15歳のアイルランドの学生は、ロータリーが後援したエッセイ・コンテストで次のような詩を書きました。

8人が仕事からの帰り道に死んだ。彼らは建築労働者、指物師、地元の人、友人と  
いった人達で…まともな標的にされた。彼らはどうして、まともな標的であり得るとい  
うのか。まともな標的なんて、あり得るのか。テロリストはどうして私と同じ姿なのか。  
彼らはどうして普通の人間に見えるのか。彼らは悪だ。彼らは影の中に生きている。  
彼らは大地に属していない。あれほど平気で命を奪うなんて、彼らは生きるに値いし  
ない。．．．私がかつては一緒に働いた人が殺されたのだ。吹き飛ばされた。憎しみに  
屈しないことは難しい。無感覚のままではいることは難しい。しかし私は憎しみに屈  
しない。平和は、よろめきながらも やがて やって来る。

ロータリー世界平和フェローの力でいつの日か平和がやって来ることを願ってやみません。現在までに、およそ230人が、平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターを卒業しています。平和の仲介人として、戦争で母国を追われた難民を助け、紛争そのものの根本的原因に取り組みながら、彼らは紛争地帯で懸命に働いています。彼らに活動の手段を与えたのは、私たちロータリアンです。しか

し、既に起こっている紛争を解決し、将来起こり得る争いを防止するのは、途方もなく大きな課題であるため、もっと多くの平和の仲裁者が必要とされています。

私はポリオの撲滅が実現可能だと信じていますが、これと同じように、平和がきつと実現すると確信しています。50年近くも平和を享受しているヨーロッパを見てください。ニック・レアード君の住むアイルランドも、イアン・ペイズリーとゲリー・アダムスが協力している現在、平和がほぼ保たれています。これは、以前には誰も予想できなかったことです。子供たちがポリオの予防接種を受けられるようにと、ロータリアンの働きかけにより、対立する武装勢力が武器を置いた静穏の日々を思い起こしてください。また、奉仕の旗の下に紛争国同士の人々が集まるロータリー国際大会を考えてください。そして、今週、皆さんがここにおられることを考えてください。皆さんは、異なる考え方を持つ人々が、親睦と友愛の雰囲気の中で食卓とともにすることができることを、身をもって世界に示しておられるのです。そうです、平和の願いはきつとかなうのです。

先日、私は、子供たちにポリオの予防接種を行うためにサハラ砂漠のオアシスで丸1日を過ごした後、カイロのナイル川沿いにあるバルコニーに座っておりました。夕方の日没時のことでした。真っ赤な夕焼けの中に、早くもポツポツと明かりが灯り始めていました。ディナー船も現われ、西には砂の中にぼんやりとピラミッドがピンク色に浮き上がっていました。疲れを感じながら、本来なら、忙しい1日を終えてのんびりとした満足感を味わっているところですが、私はどこか落ち着かず、イライラした気分でした。その日、重度のポリオに感染した16歳の少女を見たのです。名もないこの少女の母親は、娘の麻痺した腕を恥じていました。何たることか、わずか60セントでこれを避けることができたのに、と私は嘆きました。ワクチンは1954年から存在していたにもかかわらず、遅すぎたのです。ロータリーは遅すぎたのです。

この協議会のようなロータリーの行事は、楽しく、気分の良いものです。過去を振り返り、現在を見つめ、将来を展望する時です。ニューファンドランドの漁師の家系出身で、ニューブランズウィック大学の学長となったジェームズ・ダウニー氏は、次のように述べています。「私たちは着実に前進するが、それは自動車を運転するごとくにはなく、出発した岸の方角を頼りに、霧の中を手漕ぎ船で進むがごとくである。矛盾のように聞こえるかもしれないが、目の前にあるのは常に過去であり、背後にあるのが未来なのである」

どうか私とともに、この想像上の手漕ぎ船に乗ってください。早朝、日の出を背に湖に乗り出し、少しずつ遠ざかるデッキを見ながら漕ぎ進みます。静寂さと朝霧に包まれた湖面は、この世のものとは思えない光景です。

ロータリーが誕生したこの時代に私たちが目にするものは、とても興味深いものばかりです。1908年にベーデン・パウエル卿がボーイスカウトを創設し、1910年までには米国でウィリアム・ブースの救世軍が活動していました。初代シカゴ派の建築家たちが先駆けとなった高層建築が大都市の摩天楼を形づくり、その一つが、最初のロータリー・クラブの会合場所となったシカゴのユニティビルでした。カナダのウィニペグにクラブが創立され、ロータリーはいよいよ国際的な組織となりました。

かなり沖へと進んでまいりましたので、視界が大分良くなりました。1920年、世界がまだ戦争を終わらせようと戦っていた頃、国際連盟が初の会合を開きました。常設の国際法廷（現在の国際司法裁判所の先駆け）が設立され、日々の娯楽といえば、ラジオと無声映画、そしてニュース映画でした。

日の出を楽しみながら、1920年代のロータリーを振り返ってみましょう。1927年にアーチ・クランPRI元会長によって「世界でよいことをするため」のロータリーの基金の設立が提案され、1921年には国際奉仕が四番目の奉仕部門となりました。1925年には会員数が十万人を超え、世界各地にクラブが発足していくなど、ロータリーとその財団は、まさしく注目に値する国際的組織へと発展していきました。

太陽が頭上に来ると、いわゆる「大戦争」の間に訪れた大恐慌時代がはっきりと見えてまいりました。この大恐慌は、事実上、世界中を悲惨な状態に陥れました。太平洋横断の飛行機の到来、通信手段の絶え間ない

発達、第二次大戦の悪夢と戦後時代を通じて、ロータリーは、この地球のほぼあらゆるところで成長していきましました。戦争に疲弊した世界の傷跡を癒すかのごとく、1947年にロータリーは大学教育のためのロータリー財団フェロシップを創設し、文字通り国際理解への取り組みに初めて乗り出し、これが後に、財団の国際親善奨学金として開花するにいたりました。

日も半ばを過ぎたところで、湖は少し荒れ模様となり、オールを深く、強く漕がなくてはならなくなりました。漕ぎ手である私たちもやや腹立たしい気持ちです。いたる所で、世界はまだ大きく混乱しているという厳しい現実があります。民族間、宗教間の戦争、大虐殺、環境破壊、病、飢餓、貧困。ポリオ禍もまだ根強く残り、世界が完全にぐらついてしまっているようにさえ見えることがあります。究極の娯楽といえば、テレビに映し出される闘いの様子を、今では、紛争の両サイドの人間が見られるようになったことです。連日連夜、人が人に対して非人道的な行いをする悲惨な光景を目にしますが、死者の数を確認した後で、コーヒーをすすりながらチャンネルを変え、やらせのバラエティショーを見て、そのまま何も考えずに床に就きます。もうそのことを思い出すこともないでしょうし、気にかける人もいないでしょう。

友人の皆さん、波立つ湖面を力いっぱい漕ぎながら、もう一度、考える時が来たのではないのでしょうか。私たちが、平和のための財団を有し、教育的プロジェクトや人道的プロジェクトを通じて絶えず希望をもたらすことのできる組織に所属しているロータリアンであることをどうか思い出してください。1965年にマッチング・グラントとGSEプログラムが始まり、1985年にはポリオ撲滅の活動に乗り出しました。これらはすべて、ロータリアンの弛まぬ寛大な精神のおかげであるといえましょう。

だからこそ、本当に世界でよいことができると信じながら、私たちは、熱い心で、荒波の中を懸命に漕いでいるのです。

ロータリーの会員は120万人おり、その数は増え続けています。ロータリーは、200以上の国や地域に存在しています。過去10年間、控えめに見積もっても、ロータリーは2千万人から3千万人の人々の生活に直接影響を与えただけでなく、その波及効果はポリオの予防接種を受けた20億人の子供たちにも及んでいます。サハラ砂漠で私が出会った名もない少女の弟は、ポリオにかかることはないでしょう。

友人の皆さん、湖での一日は終わろうとしています。引き返し地点の波は、幸い、穏やかです。沈みゆく太陽に向かって漕ぎながら、肩越しに岸を見れば、その景色はまた曖昧としています。未来はどうなるのでしょうか。人々がいがみ合うことを止める日が来るのでしょうか。十分な清浄水が手に入る日が来るのでしょうか。孫たちは加熱した世界で押しつぶされてしまうのでしょうか。平和な世界に暮らせる日が、本当にやって来るのでしょうか。

ロータリーの平和および紛争解決研究プログラムの卒業生たちは、世界に根深い影響を与えています。ポリオ撲滅はというと、もちろん、私たちはこれを実現させます。ロータリー財団のベネファクターの数が増えていますので、こうした遺産によって恒久基金も成長していくでしょう。この会場にも大勢おられる寛大な寄付者の方々に裏切ってはなりません。年次寄付が過去4年間にほぼ倍増したことを考えれば、「毎年あなたも100ドルを」のスローガンは現実のものとなるにちがひありません。

私のことを夢想家だと言う方もおられるでしょうが、ジョン・レノンの言葉を借りて、私は次のように申し上げたいと思います。

夢を見ていると言うかもしれないが  
それは僕一人だけじゃない  
君も僕らと一緒になれば、  
やがて世界がひとつになると願っている

これこそが、ロータリアンとして私たちが行っていることです。私たちは「夢をかたちに」するのです。

さあ、太陽が地平線に近づき、真っ赤な夕焼け空となりました。コオロギが夜の賛歌を奏で始めると、世界はすこぶる平和な場所に思えてきます。肩越しにデッキをちらっと見てください。何か聞こえましたか。何か見えましたか。それは何ですか。明日のチャレンジが皆さんにささやいています。地区ガバナー・エレクトの皆さん、

この世界には求める人間がいる  
すべてを賭けて平均的な人間としての存在から這い上がることを  
君は厳しい仕事に遭遇した時、それに敢えて取り組もうとする一人か  
かつて経験したことのないほどの高みへと昇るために  
それは期待しすぎというものだろうか

今日は、偉大なる目的を果たす日だ  
自分を信じて、目標のチャレンジに立ち向かおう  
1日の終わりには、自分の成したことを誇らしく思うだろう  
勝利した闘いを振り返り、ここまでたどり着いたことに満足感を覚えるだろう

君が世界で行ってきたよいこと  
世界で行っているよいこと  
そして、世界でこれから行うよいことに、ありがとう

# 2008-09年度の財団の目標

ジョナサン・マジアベ

ロータリー財団管理委員会委員長エレクト

ロータリー財団の管理委員会を代表し、この国際協議会に皆さまを心より歓迎いたします。ともに「夢をかたちに」していけるものと期待しております。

皆さんはさまざまな不安や懸念を抱えてここに到着されたかもしれませんが、たった今、そのすべてを安心して消し去っていただきましょう。皆さんの内側には、リーダーシップを執る能力がしっかりと備わっています。皆さんは人を率いる力を実証してこられたからこそ、クラブや地区に選ばれ、ここにお出でになったわけです。また、ゆけどもゆけども岸の見えない航海に乗り出すことが、これから皆さんを待ち受けているのではないことも断言いたします。先任の方々が通ってきた確かな針路が既に描かれています。そして、サンディエゴに滞在中、皆さんは多くを学ぶなかで熱意と意欲に満たされ、これからの任務に対しての自信を持たれるはずです。

これまで提供されたリソースは非常に重要なものですが、それがすべてではなく、もう一つの重要な部分、ロータリー財団があります。この財団を通じて、クラブと地区は、世界でよいことを行うための奉仕の力を何倍にも強化することができるのです。財団プログラムは、あらゆる奉仕の機会を私たちに提供してくれます。ガバナーの仕事とは、確かな結果が伴う具体的な目標に支えられた明確なビジョンを打ち出すことです。

ミケランジェロの描いたビジョンをご存知でしょうか。ある日、大工が置いておいた、まだ磨かれていない大理石の塊を見つけたミケランジェロは、「この石は何に使うのか」と尋ねました。

「それはもう使い道がありません」と答える大工に向かって、ミケランジェロはこう言ったのです。「まだ使える。私のアトリエまで送り届けなさい。この石の中に閉じ込められている天使を私は解放してやらねばならないのだ」

1985年以来、私たちが全力を傾けて解放しようとしているのは、ポリオ撲滅という名の天使です。1985年、私たちは世界中の子供たちに対して、世界からポリオを撲滅することを約束したのです。皆さん、私たちはこの約束を守ります。

皆さんの多くは、この恐ろしい病からすべての子供たちを守ろうという活動が開始された後に、ロータリーに入会されたのではないのでしょうか。そのため、まだこのプログラムに参加したことのない方もいらっしゃるでしょう。ロータリー歴の長い方は、1988年の国際大会で、当初の目標の二倍以上に相当する2億4千万米ドル余りが調達されたと発表されたときの感動と興奮の渦を覚えていらっしゃることでしょう。その後、ポリオとの闘いを続けるためにさらに資金が必要となったとき、ロータリアンは再び1億2千万ドル以上を集めました。

ポリオにかかった人が周りに一人もいないという方もいらっしゃるでしょう。それは幸運な方です。私の祖国、ナイジェリアは、4カ国残されたポリオ常在国のうちの1つに入っており、ポリオに侵され手足が麻痺したままの人々が大量にいるなか、この問題に全力を挙げて取り組んでおります。ポリオがいまだ深刻な脅威であるのは、ナイジェリアばかりではありません。数カ月前、オーストラリアへ留学中のパキスタンの学生が、ポリオに

感染していることが発覚しました。幸いにも、この学生は、正しい診断の下、隔離された環境で治療を受けることができ、オーストラリアのロータリアンの厚い支援によって回復するにいたりました。しかし、このケースで、現在ポリオのない国であっても、ウイルスは飛行機でいとも簡単に運び込まれる恐れがあるということが明らかになったのです。

ですから、私たちの第一の目標は、ポリオを撲滅するという約束を守り、それをできるだけ早く実行することではなればなりません。この目標とその達成法については、明日の本会議で詳しく学ぶ機会が設けられるでしょう。

ロータリー家族の皆さん、ロータリーに入会した後、まず最初に学ぶ会員の義務は、会費を払うことです。この一部は国際ロータリーの支援に充てられます。一方、ロータリー財団は、ロータリアンをはじめ、より良い世界を築こうというビジョンを共有している財団の支援者による自発的な寄付のみに支えられております。この寄付は、私がロータリー財団を支える2本柱と呼ぶところの年次プログラム基金と恒久基金に寄せられます。

年次寄付は、財団の寄付増進の礎石であり、財団プログラムを動かす原動力となるものです。「毎年あなたも100ドルを」のプログラムを十分に支援することを拒むのは、生き物に対して酸素を拒むに等しい行為です。仮にすべてのロータリアンが各自少なくとも毎年100ドルを寄付したなら、これは毎年1億2千万ドル以上という計算になります。この資金が、きれいな水を供給し、貧困を救済し、飢餓や識字問題に取り組むことを可能にしてくれるのです。今申し上げたほかにも、財団は数多くの意義あるプロジェクトを支援しています。

ここで忘れてならないのは、私たちの財団はもはや、ささやかなニーズに取り組むささやかな財団ではないのだということです。私たちは、世界的なポリオ撲滅に取り組む公共と民間のパートナーシップの一部です。発展途上にある地域で大規模な保健プロジェクトを支援し、水管理の問題解決にもますます大きくかかわっています。草の根の力をよりどころとしながら、国際的な注目も高まる今、ロータリー財団は、十分な財力さえ整えば、これまで考慮し、検討してきた問題に挑む大々的なプロジェクトに乗り出す可能性を持っています。

これを実現するためには、未永い発展を約束し、将来への支援をもたらし続ける堅固な基金が必要です。これが、2本目の支援の柱、恒久基金です。米国、ユタ州のソルトレークシティで行われた2007年RI年次大会で、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の共同会長であるビル・ゲイツ・シニア氏が私たちを前に、計画は野心的に立てよとお話してくださいました。恒久基金の強化を急ぐことによって、現在多くの募金活動に注いでいる労力をプロジェクトの実施に向けて集中することができます。ロータリー家族の皆さん、私たちの第二の目標が、年次プログラム基金と恒久基金を通じて、ロータリー財団を支える2本柱を積極的に受け入れるものでなければならないと、皆さんにも同意していただけるのではないのでしょうか。

数年前の国際協議会で研修リーダーを務めたアラン・ジャガー氏は、このように述べられました。

「ここで一つ秘密をお教えしましょう。ロータリアンが思いつく限りのすべてのプログラムに提供して余りある資金が、実はロータリーに存在しているのです。問題は、それがまだロータリアンのポケットの中にあるということです」 私は皆さんが、あの手この手で、ロータリアンのポケットの中から天使を解き放してやる方法を編み出してくださるものと信じております。

それでは、次にまったく新しい達成可能な第三の目標についてお話ししましょう。それは、ロータリー世界平和フェロシップ・プログラムを恒久的に確立し、世界ポリオ撲滅を支援する「手を貸そう」のプログラムです。私はこれを「あなたの財団、私たちの財団」と名づけました。

皆さんご存知のように、独自の基金や財団を設けているロータリー・クラブや地区が数多く存在し、なかにはロータリー財団より多額の資金を有するものもあります。これまでロータリー財団は、このような組織をロ

ロータリアンの寄付の対象となる競争相手とみなす傾向がありましたが、私はこの考え方を変えたいと思うのです。競争相手ではなく、協力し合うパートナーの関係へと移行することを望みます。具体的に私が望むところは、平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターへの十分な資金提供とポリオのない世界という私たちの夢の実現に向けて、私たちが協力関係を築き、ともに協力し合うことです。この二つのプログラムは、非常に重要な共通の目標を達成するために、老若男女が一丸となって奉仕するという、まさしくロータリーのあるべき姿を映し出すものです。これらの意義深いプログラムを全面的に支えるために、あらゆる手段を駆使してまいりましょう。

昨年6月にソルトレークシティで開催された第1回ロータリー世界平和シンポジウムに参加された方ならどなたでも、このプログラムがいかほどの価値を持つものであるか証言してくださいませ。ロータリー・センターの卒業生は、現在、イラク、スリランカ、エチオピアをはじめとする、戦争や内戦の影響下にある国々で働いています。彼らは困難を極める状況にありながら、問題に取り組む力を発揮していますが、これがロータリー・センターで受けた教育の結果であるとは、学友自身が認めるところであります。これらの学友は、参加したプログラムに対して大変なる熱意を抱いている上、ロータリーによって得た機会に深い感謝の念を示しており、このことを証明するかのごとく、ソルトレークシティの国際大会で、二人のロータリー・センター学友が、生涯にわたり年間1,000ドルをプログラムへ寄付することを申し出てくれました。この二方は財産家ではありません。キャリアのとば口に立ったばかりの若者です。1,000ドルという額の寄付は、彼らにとっての大金です。しかし、このプログラムの価値を信じ、その継続を願うあまり、自らの犠牲をいとわなかったのです。

「あなたの財団、私たちの財団」計画は、そのような個人の犠牲を請うものではなく、クラブや地区の基金や財団を通じて、平和プログラムならびにポリオ撲滅を支援する機会をロータリアンに提供するものです。ロータリー家族の皆さん、このような基金の10パーセント以上をこれらのプログラムの支援に充てていただくよう、丁重にお願いすることで、少なくとも1ダース以上の天使を自由にあげることができると、私は信じております。これから皆さんが種々の基金や財団に話を持ちかけるにあたり協力してくれるシニア・リーダーの方々が任命されています。

募金に関する話題を終える前に、もう一つ触れておきたい非常に簡単な方法がございます。クラブ訪問の際に、マスターカードとの提携によるアフィニティー・クレジットカードを申し込み、それを使用するようクラブ会員にお願いすることです。昨年は、この方法によって500万ドルあまりが調達されました。

そして、調達した資金を最大限に生かし、さらなる寄付を募るには、信頼のおける資金管理を維持する必要があります。これは大変重要な責務であるため、明日は、財団資金が適切に使用されることを確認する上で、資金管理と皆さんの役割についてのセッションが設けられます。

世界には尽きることのないニーズが存在していると同時に、奉仕の機会もまた無尽蔵であることは、火を見るより明らかです。貧困、病、無知、憎悪は暗い影を落とします。その暗い影に光を当て、生命力と感動と希望をもたらすのが、ロータリー財団です。世界的なポリオの撲滅における人道的活動とリーダーシップを通じて、ロータリー財団は世界のひのき舞台に立つようになったのです。諸政府からの信頼を固くし、非政府団体からは共通の目標に向けて協力関係を求められるのが私たちです。慎重な資金管理においても公に認められています。

しかし、多くのやらなければならないことが残されており、今こそが実現のときです。私たちの第四の目標、ロータリーの公共イメージを向上させるため、国際ロータリーと協力すること、これは財団の評価をさらに高めるものです。

この協議会に集まった私たちは、ロータリアンが日々、世界のために善をなしていることを知っています。しかしながら、これはほとんどの一般市民にとっては知られざる事実です。謙虚さが邪魔をして、自分たちの行いについて語らずじまいになることが、私たちには往々にしてあります。しかし、私は、私たちの業績をもっと伝えていくべきであると思います。ロータリーの行っていることを地元の地域社会で、全世界で、広めていく必要があるのです。一般市民からの認知度が高まれば、ロータリー・クラブに入りたいという新しい会員が増え、財団に寄付をしたいという新しい寄付者が増えることになるでしょう。

ロータリーの推進運動の真髄は、草の根レベルの行動にあります。地元のメディアの協力を請い、ロータリーの善行を地域に知らせる仕事は、一つひとつのクラブに託されているのです。メディアに対する働きかけを支援するため、RIでは広報補助金試験的プロジェクトを実施しています。ロータリーの公共イメージを高めるために、この補助金をご活用いただき、クラブと地区の広報委員会に協力するよう、皆さんにお願いいたします。

さて、第五の目標、ロータリー財団の未来の夢計画の実施に参加すること、ですが、これにつきましては、明日の第6回本会議において深く掘り下げてお話し合いいただくことになります。私たちの財団が時代のニーズに応え、簡素化と効率性を図ることができるよう、この長期的計画についてもっと知り、広めていただけますようお願いいたします。

ロータリー家族の皆さん、改めまして、2008-09年度の財団目標は次の通りとなります。

1. ポリオの撲滅という約束を守る。
2. ロータリー財団を支える2本柱、「毎年あなたも100ドルを」による年次プログラム基金および恒久基金を推進する。
3. ロータリー世界平和フェロウシップ・プログラムを恒久的に確立し、世界ポリオ撲滅を支援するために、クラブと地区の財団からの資金を分かち合う「手を貸そう」のプログラム、すなわち、みんなの財団、私たちの財団に参加する。
4. ロータリーの公共イメージを高める。
5. ロータリー財団の未来の夢計画を支援する。

私はこの講演の冒頭で、向こう岸のない航海にいぎなうのではないと、申し上げました。これと同様に、何事を行うにも正しい情報なくして達成することができないのは当然のことです。これを踏まえて、これからの目標の背景にある理由をお伝えした次第でございます。皆さんにご期待申し上げるのは、ご自身の長期的なビジョンを展開し、この任務が私たちみなのものであるとご理解いただくことです。これらの目標を達成することをご自身の任務としてとらえること、これを皆さんにお願いできますか。

ジャワハルラール・ネルー・インド初代首相が息を引き取った際、死の床には詩人ロバート・フロストの次の下りを首相自ら書き記したものが見つかりました。

森は美しく、深く、陰る  
しかし、私には果たすべき約束がある  
眠りにつく前に、まだ何マイルも行かねばならない  
眠りにつく前に、まだ何マイルも行かねばならない

ロータリー家族の皆さん、7月1日、皆さんのときがやってまいります。皆さんは、眠ることなく、約束を果たし、天使の大群を解放し、「夢をかたち」にするのです。

# ロータリー・センターの持つ影響力

ジネット・クロエス

元ロータリー世界平和フェロー

私の体験と、私の思う成功を皆さんにお話しできるこの機会を、大変光栄に思います。それは、ロータリー財団と世界中のロータリアンの皆さんが、奨学金や心からの励ましの言葉を通して、私が今いるところに到達するのに大きな力を貸してくださったからです。

2003年から2005年にかけて、私は第2期ロータリー世界平和フェローの一人として、パリ政治学院（俗称シアンスポ）で国際平和と安全保障分野の2年の修士課程を修めました。この世界平和プログラムに参加したいと思ったのは、これもロータリー財団からいただいた、もう1つの非常に幸運で、私の人格形成に大きく影響した体験の直後のことでした。

パリでロータリー世界平和フェローとしての学びを開始する3年前のことですが、地元サウスダコタ州のロータリー第5610地区が、モロッコのマラケシュにある大学に一年間留学するためのロータリー国際親善奨学金をくださいました。当初の私の考えは、イスラム思想と神学、古典アラビア語を勉強して、いわゆる「西洋」とイスラム世界との関係をより深く掘り下げることでした。

2000-01学業年度、私はモロッコで学び、奉仕しました。皆さんの中に覚えていらっしゃる方もおられるかもしれませんが、2000年はイスラエルとパレスチナの間の紛争が第二次インテファダに激化した年でした。留学先の大学の学生は、パレスチナを支援し、イスラエルとアメリカの両国の政府に反対するデモを毎日行っていました。ほぼ1カ月の間、授業が中止されました。

モロッコにやってきたばかりの私にとっては、難しい日々となりました。見た限り、私はキャンパスで唯一の外国人であり、他の学生が私の存在に好奇心を寄せているのは確かでしたが、私に近づく勇気のある人はほとんどいませんでした。私は何としても親善大使の役目を果たしたいと思っていましたが、取りたかった大学のコースはすべてアラビア語の講義であるため、英語かフランス語を話す教授とマンツーマンの授業をするほかにありませんでした。そういうわけで、交流をこちらから始めるために、英語科の教授の元へ行って、学生を対象にインフォーマルな英会話のコースを教えたいと申し出ました。教授たちはこの案をととても気に入ってくださり、すぐさま必要なアレンジに取りかかってくださいました。

最初の英会話クラスに向かう私は、15人の名前の載った出席予定者リストを受け取りました。ところが、小さな教室に着いてみると、そこには60人以上の学生と他の学科の教師が待っていました。私がアメリカ人であると聞いて、何を言うのか聞こうと集まってきたのです。学生たちはアメリカの大学のことからアメリカのホームコメディまで立て続けに質問を浴びせました。彼らはよく笑い、また真正面から対抗してきました。ほとんどの質問は、避けて通れない2つの話題、つまり、宗教と政治にまつわるものでした。

学部での専攻の1つが神学であったことと、モロッコに留学する前に、このトピックについてアフリカや東南アジアの非キリスト教国で学ぶ機会があったおかげで、なんとか宗教的伝統についての質問を切り抜け、文化的な典型（ステレオタイプ）について語りました。しかし、アメリカの外交政策、特に中東政策についての質問に答えるには、これまでにない正直さ、謙虚さ、そして勇気が必要でした。

目前に座っているモロッコの学生たちに対し、私には簡単な答えはありませんでした。答えがまったくないこともありました。それでも私は話しました。そのときにできた唯一の立場から、すなわち、学生の立場から、若いアメリカ人の立場から、そして母国で受けた教育が、質問し、直面することを奨励してきたがために、この新しい国にやってきた外国人、この世界への心配をかかえて、回答を求めてやってきた外国人の立場から語りました。与えられるものはわずかでしたが、私が話すとその部屋の雰囲気が変わりました。集まった人々は、このアメリカ人が同じ紛争について、自分たちと同じように心配し、動揺し、自分たちが心を痛める同じ不公平に心を痛めていることを知って、大きく安堵の息をついたのでした。

モロッコで過ごした一年間に、私は大勢の学生や教授と話しました。そして、もっと大切なことですが、彼らの話に耳を傾けました。こうして聞いた話や教訓を基に、私は紛争や苦悩や正義・不正義について、力ある者と屈辱を受ける者について、お金や信仰で人をあやつることについて、また、誰が実際に国や人種や宗教的共同体の運命をコントロールするのかについてより深く考えました。

モロッコでの体験は、平和のための国際的対話に関与するのが自分の天職だという意識をさらに確かなものとなりました。これをはずみとして、私はロータリー世界平和フェローシップに申請しました。

パリ政治学院のロータリー・センターの2年間で、私の中にあつた情熱と大志に方向性が与えられました。また、ここでの学びは学部教育と個人的体験に政治学、国際関係学のしっかりとした教養課程を補完し、具体的な職業体験の場を与えてくれました。こうした機会は、平和推進への私の決意を、また別の国際的関与のレベルへと引き上げるのに重要な役割を果たしました。

修士課程とロータリー・フェローシップのプログラムを2005年7月に修了した私は、西アフリカのトーゴの首都で4カ月間、地域の非政府組織の市民社会平和構築プロジェクトに携わりました。その後、インターポールとして知られている国際刑事警察機構のニューヨーク国連本部勤務の長期的なポジションを受諾しました。

国連本部のインターポール事務所は、法の支配を支持することによって国際平和と安全保障を推進する国連の部署や機関と連携することに主眼を置いています。私達が行うプロジェクトの多くは、テロリズムや麻薬、武器、人の密売などの国際犯罪の予防と対策に関するものです。インターポールは国連人道問題調整事務所との密接な連携の下で、地元の救助隊員やセキュリティ要員が天災や人災に効果的かつ包括的に対応できるよう訓練を提供しています。またハーグの国際刑事裁判所と協力して、集団虐殺やその他の戦争犯罪の犯人の居場所を探る捜査班を援助しています。

ロータリー世界平和フェローとしての体験や、インターポールと国連の活動を通して平和推進に微力ながらも参加する現在の機会を通して、私は平和や世界の安全保障に真に必要なとされる、全体論的でよく調整されたアプローチについての理解を深めることができました。

私の過去の体験のほとんどは草の根レベルの、ボトムアップの活動でした。今日、私は紛れもなくトップダウン（上位下達）の活動をしています。10年近く、大学や世界各国で勉強し、平和についていろいろ考えた後で、そして西アフリカの破綻寸前の小国の国民とともに平和推進に力を注いだ後で、今日、世界のほぼすべての国々の外交官や指導者が主要な安全保障問題でなかなかコンセンサスに到達できないのを目にしながら、私がこれまで以上に確信していることは、平和は誠実な協力と自由な協力関係に依存するということです。

どのレベルでも、平和を作る者は、相互の尊重の念と誠実さを基にした協力関係を築かなければなりません。平和が持続可能なものであるためには、現場の人道奉仕者と国連の外交官の間に協力がなければなりません。それは、政府も、非政府団体も、単独では不十分であり、ボトムアップであれトップダウンであれ、どの活動も1つだけでは不十分だからです。平和には、私達全員がすべてのレベル、すべての領域で長期的に努力していることが欠かせないからです。

ロータリー世界平和フェロースhip・プログラムを創設した人々は、このような平和への包括的なアプローチの必要性を理解していました。候補者を募集するとき、彼らは、飢餓のある場所で食糧確保のために働いている人々、病気のあるところで医療に従事する人々、識字問題のあるところで教育に従事する人々、環境破壊の現場で保全に従事する人々、貧困地域で持続可能な経済開発に従事する人々を探しました。プログラムを修了したロータリーの平和フェローは、教育者、民主主義の推進者、情報アナリスト、人権活動家、ジャーナリスト、エコノミスト、医師、外交官となることによって、この哲学を反映しています。このような多様な活動を通して、共有する1つのコミットメントが成就される様子は、ちょうどロータリー自体とよく似ています。

ロータリー世界平和フェロースhipと平和と紛争解決における国際問題研究のためのロータリー・センターは、ロータリー財団の教育上の優先事項であり、持続可能な世界平和、親善、理解への財団のコミットメントを体現する大胆で不可欠なステップです。平和の概念を学ぶという異例の機会を私にくださったロータリー財団に、また特に、多くの平和を作る人々の活躍を見る無数の機会をくださった世界中のロータリアンに感謝しています。ロータリアンの皆さん、あなたがたこそ、もう一つの国連です。

# ロータリー財団の未来の夢計画

レイ・クリングスミス

2008年ロサンゼルス国際大会推進委員会委員長

私が地区ガバナー・エレクトを務めてからもう何年も経ちますが、フロリダ州のボーカラトーンで行われた国際協議会での経験は、今でも鮮明に覚えています。新しい友人が大勢できて楽しかった反面、恐ろしいほどたくさんの新しい情報がどっと押し寄せたのです。事実、こうして協議会の終わりを迎えようとしている今、思い出すのは、「地区ガバナーとしての準備が整っているか」と同期のエルモ・ブラム氏に尋ねた時のことです。エルモはすぐにこう答えました。「まだ大分混乱しているよ。だが、それは前よりもずっと高いレベルの混乱さ」ですから、今日、皆さんが感じておられる混乱が、協議会が始まったときよりもずっと高いレベルのものであることを願っております。

ロータリー財団の新しい未来の夢計画の基本的なコンセプトは、この協議会で皆さんが吸収しなければならない膨大な情報の一部であり、この点については、皆さんに良いニュースと悪いニュースがあります。良いニュースは、未来の夢計画が、未来へ向けての現代的な進路を定めるものであるということで、これは、道路地図ではなく衛星ナビゲーションが道案内してくれるのに喩えられます。悪いニュースは、皆さんがこれを地区のクラブに説明しなければならないということです。高齢のパスト・ガバナーの方々には、旧式の道路地図を好む方もおられることでしょう。

管理委員会は、去る10月の会合で未来の夢計画の新たな概念をいくつか承認し、また、新しい方向についてRIのウェブサイトにて特集して紹介されました。ここサンディエゴでも新しい未来の夢委員会の概要が配られましたので、その抜本的な改善内容に既にお気づきの方もおられるでしょう。2009年から始まる3年間の試験段階が終わる2012年までは、これが全面的に実施されることはありません。そうです、2009年です。しかし、安堵のため息をついたり、リラックスしたりしている場合ではありません。来るロータリー年度の皆さんの仕事が、この計画の成功にとって極めて重要なのです。これからその理由をご説明いたします。

1947年、当時「ロータリー・フェロー」と呼ばれていた、財団の金字塔となるロータリー奨学生のプログラムが開始されたのを覚えていらっしゃるでしょうか。当時、海外留学プログラムというものはほとんどなく、通常の外国への渡航手段といえば、飛行機ではなく船でした。その当時は、ロータリー奨学生にとって（海外渡航は）新世界への旅であり、勇敢な行為でしたから、彼らは真の親善使節としてホスト国のロータリアンに温かく迎え入れられていました。私が1961年にロータリー奨学生だった頃、同じような奨学生は100人ほどしかいませんでしたし、私たち一人ひとりの顔写真が「ザ・ロータリアン」誌に掲載されたほどです。今日、ほぼすべての大学に海外留学プログラムがあり、2004-05年度には、8年前と比べて2倍の推定約206,000人の米国人学生が外国の大学に留学しました。また、外国から560,000人の学生が同じ年度に米国の大学に留学しました。しかし、ロータリーの奨学金プログラムは、1947年の創設以来、ほとんど変わっていません。

研究グループ交換 (GSE) プログラムは、ジェット旅客機の到来直後、1965年に開始されましたが、海外旅行はまだ珍しい時世でした。当時、私の地区内の町では、イギリスやインドから来た若い社会人を目にするのは稀でしたし、ましてや、夜中の2時にテーブルの上に立って「ワルツィング・マチルダ」を歌うオーストラリア人の若者の姿など、めったにない光景でした（実際これは、1973年に私の地区でオーストラリアからのGSE

チームがしたことでした。オーストラリア奥地のこのような荒々しい人々の許に我がチームを送って果たして安全なものか、考えてしまいました)。今日では、ロサンゼルスからシドニーに飛ぶ方が、ロスからタンパに行くより安いこともありますし、2003年RI国際大会では、1万4千人以上のロータリアンとゲストがブリスベンを訪れました。海外旅行の魅力は薄れ、また、異なる形のGSEというものも現れましたが、GSEプログラムの基本的コンセプトは43年経った今も変わりません。

1965年にはマッチング・グラント・プログラムも始まりましたが、最初の1万件のマッチング・グラントが授与されるまでに35年かかるという、ゆったりとした滑り出しでした。しかし、次の1万件が授与されるには、2000年から2005年までのわずか5年間しかかかりませんでした。これほど爆発的な関心の高まりには、さすがの財団も効率良く対処できる準備ができていませんでした。どっと押し寄せるマッチング・グラントの申請書は、財団の「未来の夢」の調査を開始するという管理委員会の決定が下された一因となったのです。

未来の夢計画は、3段階のプロセスから成ります。第1段階は、財団プログラムを簡素化し、測定可能な結果に焦点を絞ることです。第2段階は、全世界的な目標と、地元単位の目標との間のプログラムの選択のバランスを図ることです。第3段階は、意思決定をさらに地区に移行することによって、地区レベルとクラブレベルで、財団が自分たちのものであるという自覚を高めることです。この新しい計画は、問題のすべてを解決するものではないかもしれませんが、言わば2車線の道路を4車線にするようなものであると信じています。もし、ニュージーランド南部の丘の上で羊を載せたトラックの後ろを運転したことのある方がいらっしゃれば、4車線道路のありがたさがきっとお分かりいただけるでしょう。

先回りして考えている方なら、権威と責任は切っても切れないものであるというボブ・バースRI元会長の賢明な考えを思い出しておられることでしょう。地区にもっと多くの決定権が与えられるということは、地区の責任も増すということです。しかし、多くの地区は、自ら決定を行うだけの柔軟性を持ち、さらなる責任を受け入れる準備が整っていると信じています。2009年7月から開始される3年間の試験段階に参加する機会が約60の地区に与えられ、残りの地区は2012年に新たな補助金のシステムに参加することになります。

未来の夢計画は、最初の立案段階をほぼ終え、現在は、言わば分析段階であると説明するのが最も適切でしょう。建築の契約についてよくご存知の方には、未来の夢委員会と管理委員会が、過去2年間に、プログラムの設計開発を完了するために懸命に取り組んできたとも言えます。今ロータリー年度は実施計画書の作成に全力を尽くしているところであり、未来の夢委員会は、管理委員会の10月会合に中間報告書を提出しました。実施計画書と設計図が未来の夢委員会に戻され、現在、4月の会合で管理委員会が検討するために、最終文書の準備が進められています。

- 管理委員会とRI理事会は、2009年からの3年間の試験段階の後、2012年に開始される新しい補助金構成を承認しました。
- 新しい補助金構成は、2つのタイプの補助金に特徴づけられます。
  - 第1のタイプは、財団の使命に関連し、また、この使命と調和した、地区が選ぶ幅広い地元プロジェクトや海外のプロジェクトに利用できるもので、地区に支給されます。
  - 第2のタイプは、管理委員会が4月の次回会合で選ぶ長期的な重点分野の1つまたは複数に当てはまる、より規模が大きく、持続可能なプロジェクトに資金を提供するものです。
- この補助金モデルをテストし、さらに改善するために、管理委員会によって、3年間の試験段階に参加する、地理的に分散したおよそ60の地区が選定されます。

- これらの試験地区は、地区財団活動資金の40パーセントまでの補助金を申請する資格があり、このほかに、財団が選んだ重点分野から3～5つの分野の補助金を申請することができます。
- 残りの地区は、3年間の試験段階中には現行のプログラムを維持し、2012年の新補助金構成に切り替える準備を行います。

さて、ここでもう一つ、良いニュースと悪いニュースがあります。良いニュースとは、未来の夢計画のおかげで、財団の奉仕の第二世紀には、運営がさらにシンプルに、合理的な方法になるということです。悪いニュースとは、皆さんが、(懐疑心旺盛な元地区ガバナーも含めて) 地区内のクラブやロータリアンに説明するために、未来の夢計画のこの新しいコンセプトを完全に消化する必要があるということです。しかし、また建設プロジェクトに喩えると、一番良いニュースは、管理委員会の4月の次回会合で実施設計書が完成した後の次なる段階は、入札と建設工事の段階であり、これはあらゆる建設プロジェクトで一番面白い部分でもあります。また、皆さんが最も関心を持たれると思うニュースは、ここにおられる皆さんの地区ガバナーの同期生が、この新たな未来の夢計画の建設の入札者であり建設者であるということです。

その可能性を想像してみてください。管理委員会が、財団の長期的改善に向けての仕様と青写真を皆さんに説明し、こう言います。「これが新しいガイドラインです。それでは、地区で、地区のために、より良い財団を築くために早速とりかかってください！」 このガイドラインは、地元で管理しやすくするものであり、入札で試験段階への参加を見事獲得した60の地区に(そして最終的にはすべての地区に) 多くの選択肢を与えるものです。これら新しい選択肢は、ジョージ S. パットン大佐が賢明にも言った次の言葉を反映するでしょう。「人々に物事のやり方を教えるな。何をすべきかを教えろ。そうすれば貴方は彼らの才能に驚嘆することになるだろう」 このアドバイスは、まさしくロータリーにも当てはまります。なぜなら、ロータリアンの才能は、まさに驚嘆すべきものだからです。

さて、ここにおられる次期ガバナーの方々に、管理委員会が、新モデル建設の入札者となり、各地区のロータリアンの創造性を存分に発揮していただける機会を提供したわけです。プログラムの選択肢をより簡素化し、持続的で大きな成果を及ぼすことに重点を置くと同時に、地元単位での一層のコントロールが利くというこれらの目的を、ロータリアンの皆さまが承認し、支持してくださるものと確信しています。地区のロータリアンが進取の精神で臨むのを皆さんが手伝ってくだされば、ロータリーの業績の水準さえも大きく凌ぐ素晴らしい結果が生み出されるでしょう。

さらに良いニュースは、財団が引き続き、ロータリアンにより管理され、ロータリー・クラブとロータリアンが「世界でよいことをする」目的で活用できるということ、つまり、真に私たち自身の財団であるということです。使命声明に謳われているように、財団はこれからも「ロータリアンが、世界理解、親善、平和を達成できるように」していきます。目標に変わりはありませんが、支援業務の提供方法がさらに改善され、現場で活動するロータリアンは、これら新補助金の中から最もふさわしいと思うものを活用することによって、活動の選択に影響を与えていくことができるようになるのです。

財団は、M.A.T.カパラス元会長のテーマにも反映されているように、ニーズを抱えた人々に希望をもたらします。このことを、エド・カドマン元会長は、次のように雄弁に語られています。

飢えた子供のうつろな目や、すすり泣く母親のかすれた声といった空しさがあるところには、あなたが手を差し伸べることができます。なぜなら、ロータリー財団がここにあるからです。

孤独な人のため息や、孤立した人の絶望のあるところ、年老いた人や疲れ果てた人々のいるところ、貧しく、病み、希望を失った人のいるところには、私たちが付き添うことができます。なぜなら、ロータリー財団がここにあるからです。

一日中、そして一晩中、慈愛と思いやりの代名詞である「超我の奉仕」という共通の固い絆で、親善と理解に溢れたロータリーの人々が結びついています。

「超我の奉仕」による共通の固い絆のおかげで、財団はこれからもロータリー・クラブの力になっていくでしょう。2年前の国際協議会でガバナー・エレクトとして講演したパトリック・コールマン氏が語った、悲しくも心温まるジョニー・バンダ君の物語のように、米国の複数のクラブと協同してルアンシャ・ロータリー・クラブの例もこれに当てはまります。ジョニー・バンダ君はエイズ孤児でしたが、財団の助けを必要とするエイズ孤児は数え切れないほど存在しています。

アフリカで信じられないほど勇敢な活動をしているスーザン・スティガントさんとムウイラ・チガガさんのように、私たちの財団は、国際問題研究のためのロータリー・センターの卒業生を輩出し続けています。そして、私のような田舎町の一学生が地球の裏側の大都市や小さな町を訪れたり、金鉱や発展途上国の原住民の村を訪れたり、さらに重要なことには、自分より恵まれない人々に生涯奉仕する道を切り開いてくれた国際奉仕の価値をロータリアンから学ぶことを可能にするような、奨学金を提供し続けていきます。

そうです、ロータリー財団は、これまでと変わらぬ私たちのロータリー財団であり、世界をよりよくしていくためにロータリーのプログラムに資金を提供していきます。60億人の世界人口と比べると、120万人のロータリアンは少数しか代表することができませんが、私たちは、著名な文化人類学者のマーガレット・ミードの次のような予言を実行しているのです。「思慮と熱意のある少人数の人々に世界を変えることなどできないとみくびってはいけない。実際には、それが世界を変える唯一の方法なのだから」

ロータリアンが素晴らしい方法で世界を変え、それを財団が助けていることに、疑いの余地はありません。今年度、皆さんには、ロータリアンが世界を変える上での財団リソースの活用方法を改善するという、絶好の機会が与えられています。ロータリーは大切な時期を迎えています。これまでの地区ガバナーは、ロータリーを世界舞台へと押し上げるのに貢献していただきましたが、今というこの機会に、人類への奉仕の第2世紀に財団が備えるべく支援できることは、唯一無二の機会であるといえましょう。チャレンジ精神でこの変化を捉えることができれば、皆さんはより良いロータリー財団の建設者となることができるでしょう。「変化は必ずしも進歩を保証するとは限らないが、進歩には変化を絶対に欠かすことができない」とは、まさにその通りです。

皆さんが、エネルギーと熱意、そして誠意をもってこのチャレンジに臨んでくださることを信じています。平凡なロータリアンが素晴らしい偉業を成し遂げることができるのは、まさにこうした資質があるからです。皆さんが必ずや成功すると、私が太鼓判を押します。また、財団から恩恵を受けている者として、皆さんに心から感謝申し上げるとともに、ロータリーを通じてガバナーとして素晴らしい奉仕を行われる皆さんに対し、ロータリー奨学生として私が学んだアフリカンス語の言葉「Alles von die beste (ご活躍をお祈りします)」に表されるように、ご活躍を心より願っております。

# 人道的補助金と資金管理

マーク・ダニエル・マローニー  
ロータリー財団管理委員

ソルトレークシティーで開かれた2007年RI国際大会で、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の共同会長であるビル・ゲイツ・シニア氏が、「地球上で最高の団体」の一つとしてロータリーを挙げ、「何百万という人々の生活を劇的に改善する」ための「気の遠くなるような」ロータリアンの活動を称賛しました。ゲイツ氏の言葉は、ロータリーとロータリー財団が慈善的・人道的団体の世界で確固とした評判を誇っているという事実を、私たちに再認識させるものでした。このような卓越した評判は、ロータリー財団の成功に極めて重要です。井戸や医療クリニック、学校に付けられたロータリーの歯車は、「夢をかたちに」するために私たちに託されたリソースが効果的かつ適切に生かされたことの証しなのです。

私たちの評判は、ロータリアンの高潔さの賜物です。ロータリーの初期の時代から、ロータリアンは、事業と専門職務の取引において倫理を大切にしてきました。ロータリー創立百周年にデイビッド・フォワード氏が記したように、ロータリアンが事業における倫理的な行いを率先して行うべきだという考え方は、ポール・ハリスが信頼できる商人と取引したいと切望していた当時に始まります。ハリスは、少年時代にこのような信頼関係をバーモント州の村で見聞きしていました。1911年、米国オレゴン州ポートランドで開かれた第2回年次大会において、集まった代議員たちは、公平で誠実な取引への誓約を含む「ロータリーの基本骨格 (Rotary platform)」を採択しました。この基本骨格は、今では誰もが知っている言葉「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉で終わっています。1912年にポール・ハリスは次のように綴っています。「事業というものは、その人の最良の部分、最も真実な部分を表すものである。従って、ある人の事業での行いが清らかであれば、その人の社会での行いも清らかであろう」これは、ロータリーの歴史を通じて、倫理的な取引が引き続き行われるべきであることを強調しています。1915年のサンフランシスコ年次大会でロータリーの倫理規範が採択され、その後1943年に、RI会長となるハーバート J. テイラーが執筆した「四つのテスト」がRI理事会により採択されました。1951年には「ロータリーの綱領」の第二項として職業奉仕が恒常的に掲げられることとなり、1989年の規定審議会では「ロータリアンの職業宣言」が採択されました。

倫理と高潔さへのこうした決意は、ロータリー財団の資金の扱いにも広げなければなりません。財団管理委員であろうとなかろうと、地区ガバナーや地区委員やプロジェクト担当者であろうとなかろうと、ロータリアンである私たちは、財団の資金を扱う際に最高の信頼性をもって行動しなければなりません。私たちは、財団に寄付をしてくださった世界中のすべてのロータリアンを代表して、神聖な委託財産として資産を預かっているのですから、このような資金を適切に管理することが私たちの責務なのです。

過去4年間、ロータリー財団管理委員会は、財団資金の適切な管理に再び重点を置いてきました。財団のプログラムを利用するロータリアンとして、私たちは自分たちの成功の犠牲を払ってきました。マッチング・グラントの創設から最初の35年間に1万件のマッチング・グラントが承認された一方、その後のわずか4年間にさらに1万件のマッチング・グラントが承認されたのです。マッチング・グラントやほかの人道的補助金プログラムの利用に見られるこうした急加速は、管理委員会と財団職員が、補助金を承認してできるだけ早くプロジェクトに資金を支給すべくひたすら「支払い」に追われることを意味します。プロジェクトへの支援が急激に増加したことで、その成果を定期的に確実に報告することよりも、資金調達ばかりに気を取られる結果となり

ました。このような報告への注意の欠落は、会計報告のばらつきに反映されました。補助金の報告書提出のレベルは、ロータリーの世界各地により大幅に異なっています。地区によっては、報告書を期日までに提出している補助金がわずか5パーセントの場合もあります。なかにはこうした状況に便乗した良心的とは言えないロータリアンもいました。他人の寄付で自分の認証ポイントを増やそうとしたり、設備や備品の価格を上乗せ請求したり、ずさんな仕事をしたり、協力団体からの寄付だったり、さらには、自分で利用するためにロータリアンが補助金を不正流用するといったケースさえこれまでに立証されています。

こうした問題に対処するため、管理委員会は、適切な資金管理を制度化するための一連の措置を取ってきました。しかし、こうした措置をご説明する前に、資金管理とは一体何を意味するのかをお話しいたしましょう。

辞書によると、「資金管理 (stewardship)」は「他人の権利に適切な配慮を払いながら財産を管理する責任」と定義されています。ロータリー財団という環境では、資金管理とは、標準的な倫理的事業慣行に照らしてプロジェクトを実施することを意味します。金銭的な取引とプロジェクトの活動は、「ロータリーの職業宣言」と「四つのテスト」の全き精神に則って行わなければなりません。財団の資金は、クラブ理事会が指示する通りにプロジェクト委員会の監督下で使用しなければなりません。クラブ理事会は、責任の所在を明確にした上でプロジェクトの徹底的で優れた監視が行われるよう計らわなければなりません。プロジェクトは、補助金の申請書に書かれた内容から逸脱せずに、承認された通りに実施しなければなりません。プロジェクトの実施や金銭的取引で不正が発覚した場合、財団の職員に報告しなければなりません。補助金プロジェクトの財務調査は定期的な、また、プロジェクトの完了時に行わなくてはなりません。資金管理では、ロータリアンが、全ロータリアンを代表して所期の受益者のために、ロータリー財団の補助金を常に損失、悪用、流用から守り、神聖な信託財産として取り扱うことが要求されているのです。

資金管理に関する懸念を受け、また、人道的補助金を積極的に利用しているロータリアンからの提案に基づき、管理委員会は、資金管理をさらに行き届かせるための手続き改善に向け、補助金のプロセスの見直しを行いました。まず第一に、プロジェクトを期日通りに実施するために、補助金申請に必要な情報の提供と、補助金の承認後の支払い要件を満たすための期間を縮小しました。プロジェクトに対するクラブの責任感を培い、クラブの監督なしにプロジェクトが実施されることのないよう、実施国側のクラブと援助国側のクラブの双方が、クラブのロータリアン少なくとも3名から成るプロジェクト委員会を任命することが義務づけられました。透明性を保つため、クラブが提唱する人道的補助金プロジェクトの節目節目にはクラブ会長に報告を行い、地区内で承認されたすべてのプロジェクトの状況については、地区補助金小委員会委員長、地区ロータリー財団委員長、地区ガバナーに通知されます。最後に、煩雑な書類手続きをなくし、報告書の内容のさらに充実させるために、補助金の中間報告書の提出期日が、6か月ごとではなく、12か月ごとになりました。

ロータリアンによる報告は、人道的補助金プロジェクトにおける資金管理の根幹とも呼べる部分です。プロジェクトが提案通りに実施され、資金が適切に使用されているかどうかを、ロータリアンは報告書を通じて確認することができます。報告書の重要性を認識し、管理委員会は、全地区に適用される報告の最低基準を設けました。補助金の報告要件を全面的に遵守し、期日通りに提出することが全地区に期待されている一方、地区とそのクラブが提唱した未完了の補助金プロジェクトの70パーセントが要件を満たした報告書を期日通りに提出することが最低基準とされています。地区がこの70パーセントの最低基準を、年2回の審査で2回連続して下回った場合、その地区は、報告レベルが90パーセントに達するまで、人道的プログラムへの参加を停止されることになります。

2006年10月に第1回の世界報告分析が行われ、その時には60パーセントの地区が報告の最低基準を満たしていました。2007年4月に2回目の分析が行われた際には、地区の79パーセントがこれらの要件を満たしており、ほぼ20パーセントという劇的な改善が見られました。報告書提出にこうした大きな改善が見られたこ

とから、管理委員会は、その後の改善を見守るために、12カ月間、地区の停止措置を先延ばしすることを決定しました。

管理委員会はまた、「人道的補助金の専門家」と呼ばれるロータリアンたちの専門知識を大幅に活用しました。1995年に初めて設置されたこれら「専門家」は、当初、大規模な3-H補助金の中間報告書を審査することを目的としていました。現在、こうした専門家は、すべての人道的補助金プログラムにおいて、プロジェクト実施地の事前視察、中間報告書の審査、監査、プロジェクト後の実施地訪問などを行っています。専門家グループのメンバーとして、250名以上のロータリアンが登録し、昨年度には、100名以上のメンバーが現地視察に派遣されました。

資金管理は、財団の人道的補助金プログラムに限られたものではなく、教育的プログラムとポリオ・プラスの重要な要素でもあります。管理委員会は、最近、奨学金受領者と研究グループ交換チームのリーダーとメンバーの選考が公正かつ偏見なく行われるよう、利害の対立に関するガイドラインを新たに導入しました。15,000米ドルを上回るポリオ・プラス補助金は第三者による財務調査の対象となり、ポリオ・プラス・プロジェクトの全提唱者は、資金を受領する前に財団の資金管理の方針に従うことに同意しなければなりません。

倫理的取引と職業奉仕という基本に忠実に、ロータリアンは、財団プログラムにおいて良き資金管理を実践します。インドのカルカッタ・メトロポリタン・ロータリー・クラブの会員で元会長のビシュヌ・ダグダニア氏は、第3290地区の補助金小委員会委員長でおられますが、この地区は非常に多くの補助金活動を行っています。第3290地区は、1度に100件の未完了の補助金を抱えていることもあるほどです。ビシュヌは、地区内の各補助金すべてを随時確認し、地区が報告要件を満たすよう、報告書の催促通知を事前に送付しています。また、関係するロータリアンと直接連絡を取り合い、財団職員とも自由にやりとりできるように常に連絡体制を整えています。ビシュヌはまた、回転ローンプロジェクトに関する複雑な報告要件を説明するために、財団を手伝いました。

外国でプロジェクトを実施していたカナダ、ケベック・チャールズバーグ・ロータリー・クラブのロータリアンたちは、プロジェクト実施中、自費で何度もプロジェクト実施地を訪れました。実施地を訪問したある時のこと、これらのロータリアンは、プロジェクトの資金が複数の銀行口座に預けられていることを知り、その結果、資金の管理が不透明で、不十分なものとなっていました。ロータリアンは、このプロジェクトに追加の資金が支払われる前に、新しい資金記録システムを導入すべきだと主張しました。

財団の成功に資金管理を欠かすことはできません。財団資金の管理は、ロータリアンおよび一般の人々での財団の評判に直接影響を及ぼします。ロータリー財団の管理人であるロータリアンは、寄付者の方々に対し、寄付を適切に使用するという義務を負っているのです。寄付者は、資金が適切かつ信頼できる方法で活用されていることを理解していれば、プロジェクトを支援するために、財団に再び寄付を行う可能性が高まります。幸い、我がロータリー財団は第一級の評判を誇っています。財団の具体的なプログラムや財団が後援するプロジェクトについてははっきりと理解しておられないロータリアンも大勢おられますが、こうしたロータリアンも、財団が有意義かつ効果的に世界で行っている素晴らしい業績について認識しているために、財団に貢献しておられます。数年前、財団に多額の寄付をするようあるロータリアンにお願いしたときに、この事実に出会いました。私の良き友人であるスタン・レイノルズ元地区ガバナーと私が、米国アラバマ州のバーミングハム・ロータリー・クラブ会員で元クラブ会長のシドニー・スマイヤーズ氏と昼食を取っていました。私たちは、恒久基金に1万ドルを寄付するよう、シドニーにお願いするつもりでした。話の中で、スタンが財団プログラムの意義について説明し始めました。ところが、スタンが2文を言い終える前に、シドニーがささげってこう言ったのです。「ありがとう、スタン。だが、もうそれ以上説明する必要はありませんよ。私はもう、財団が素晴らしいことを行っていると知っているのですから」 昼食を終える頃には、シドニーは、終身年金契約にお

ける恒久基金への20万ドルの寄付を誓約してくれました。その時点ではおそらく、シドニーは、財団を通じてロータリアンが行っているプロジェクトの一つすら挙げることはできなかったでしょう。それでも、財団の素晴らしい評判があったおかげで、シドニーは、自分の財産が有意義に使われると信じ、進んで多額の寄付を申し出てくださったのです。昨年、ソルトレークシティで、ビル・ゲイツ・シニアはロータリーについて「人々のリソースを、それを最も必要としている人々のために有効活用する方法を与えている」と語り、また、次のように加えました。「世界中のすべてのお金は、それが正しく使われなければ意味がありません」

財団の評判はとても貴重なものです。効果的な資金管理を通じて、私たちは、財団の最大の魅力でもある素晴らしい評判を守らなくてはなりません。地区ガバナーとして、皆さんは財団の評判の第一の保護者となります。注意を怠ってはなりません。地区で行われる財団のプログラムやプロジェクトの実施を皆さんと皆さんのチームが監督するにあたっては、資金管理を常に優先してください。これからも財団が「夢をかたちに」していくことができるよう、将来の世代に引き継いでいこうではありませんか。

# RIのリソースを最大限に活用するには

ベルナルド・ローゼン

RI理事

前世紀のことですが、ある日、私のクラブが私を地区ガバナーに推薦しようとしていることを知りました。その夜は遅くまで妻のレジーンとガバナーの責務について話し合いました。家庭での責任が果たせるか。職場での責任と両立できるか。この役職に求められる勇気と人格が自分にはあるのか。最終的にレジーンが私を見て、あくび交じりにこう言いました。「真珠を探しているのなら、もぐって採りなさいよ、パニックしないで」

2001年1月、私達はロータリー人生で最高の経験をしました。国際協議会です。グループ討論に参加し、本会議に出席し、まばゆいほど多様な文化のるつぼの中で、私は、自分が特別な人間であって、来るロータリー年度に、より良い、より素晴らしい、より強力なロータリーに貢献するのだと確信しました。それから、レジーンに「地区ガバナー要覧」を見せ、これを暗記するつもりだと言いました。妻は、「どうぞパニックしてちょうだい」と返しました。

幸い、ロータリーは大きな家族であり、誰も一人ぼっちに感じることはありません。私は私のゾーンを担当する世界本部や国際事務所の職員に会い、どんなサービスを提供してくれるのか、また、そのお返しに私にできることはないか尋ねました。そのときから、私達の間に関係が生まれ、これが皆に有益なもの、すなわちクラブ、地区、そしてロータリー全体に有益なものとなりました。私は地区協議会、地区大会、セミナーなどにこれらの職員を招待し、ロータリーと地区が提供する資料や管理運営上のリソースについてクラブに研修を行うのを手伝ってもらいました。各クラブが十分な情報を得たおかげで、私への依頼や問い合わせが減り、本来なら事務作業にかけたはずの時間を、クラブの現場で過ごすことができました。

通信業務部の職員がRIと地区・クラブとの間の関係を密接につなげてくれました。公式ウェブサイトを推進して、クラブにこのリソースの恩恵を認識してもらいました。広報担当職員も、難しい報道機関との関係作りで私の力になってくれましたし、ロータリーやその活動について、多くの研修資料やその他の手段を提供してくれました。

必要な書式は、どれも期限内に記入して送付するようにしました。エバンストンからのメッセージはすべて丁寧に読み、返信しました。それは、国際協議会での研修時に、職員が私にメッセージを送るのは、私を必要としているときだと聞いたからです。孤立したクラブや弱体化したクラブの管理運営上の問題や財政問題の解決にも力を入れました。たとえば、会員の最新情報や人頭金の支払いの遅れに関連する質問などです。その代わりに、私は規定審議会の決定や手続要覧、ロータリー倫理訓の解釈について職員から手厚い援助を受けました。こういった知識は、クラブ間のもめ事やロータリアン以外の人との軋轢（あつれぎ）などを、解決したり、避けたりするのに有効です。

他の奉仕クラブと共同で催すクラブのプロジェクトや行事でロータリー徽章をどう使うかについても、よいアドバイスを受けました。そのおかげで、後援企業のロゴの横に、私達のロータリーの輪を適切に表示することができました。

補助金関連の難しい問題があったときには、ロータリー財団の職員にお世話になりました。たとえば、提唱クラブが一時的にマッチング・グラントの受領資格を失っているために申請が却下された場合や、プロジェクト実施状況に関する報告に不備があったために、資金が支給されなかった場合などです。

また、ロータリー財団の提供する各種の寄付者表彰についてよく知り、ロータリアンや、ロータリアン以外で私たちの価値観を共有する人々に与えられるポール・ハリス・フェローのサファイアやルビーの違いについて理解したことも非常に有益でした。大口寄付者、ベネファクター、アーチC、クランフ・ソサエティーの各種のピンの違いを理解できたのも有益でした。

ゾーン・コーディネーターは、会員増強の担当であっても、ロータリー財団の担当であっても、その他の重点分野やリソース・グループの担当であっても、草の根レベルで活躍する大変貴重なリソースです。長期の方策の実施に責任を負う彼らは、継続性を念頭において自分の責務を果たす必要があることを私に理解させてくれました。セミナーの計画や組織でガバナーを助けてくれますし、ガバナーの見解を裏付け、目標に向けて皆を奮起させる統計的データを提供してくれます。

最後に国際ロータリー理事会にもアクセスできる点が鬼に金棒です。皆さんが自分の任務を行うとき、理事が手伝い、国際ロータリーとの連絡を取りやすくしてくれます。国際ロータリーの職員と国際レベルの役職に就くすべてのロータリアンは、ガバナーに奉仕するチームのメンバーです。ご遠慮なさらずに必要なだけ連絡してください。連絡は足りないより多すぎる方がよいのですから。

ガバナー・エレクトの皆さん、国際ロータリーのリソースを最大限に活用するとは、できるだけ多くのことを委任して、自分が期待される場所に赴けるようにすることです。クラブを訪問してプロジェクトやイベントに参加し、その成功を祝い、その英雄を表彰できるようにすることです。

皆さんが今日ここにおられるのは、ロータリーの歴史の1ページをともに綴ることを決心なさったからです。胸の躍る体験に満ちた、素晴らしい一年となるでしょう。同時に失望もあるでしょう。皆さんお一人おひとりがユニークな体験をします。前任者の足跡をたどることは、彼らの真似をすることを意味しないからです。あなたに渡された松明をさらに遠く、より高いところに運ばなければなりません。

幸い、ロータリーは大きな家族ですから。誰も一人ぼっちではありません。そして、友情は、私たちの目標であり、リソースであり、同時に報いでもあるのです。

# 青少年に対するロータリーの取り組み

アーヴィングJ.サニー・ブラウン  
2008年国際協議会モデレーター補佐

ロータリーの奉仕の中で最多の実りを約束するもの、それは世界中の青少年に対する私たちの投資であるという私の思いを、今日、ここで皆さんにお話できることを、大変光栄に存じます。青少年プログラムは、青少年とロータリアンの心を動かすものであることはもちろん、ロータリーの未来を形成するにあたって最も重要なプログラムです。

30年以上も前にさかのぼりますが、オーストラリア出身の女学生が、青少年交換学生としてアメリカに渡った例をお話いたします。1年間に3つの家庭にホームステイしたこの学生は、その体験を通して大きく変わりました。豊かな経験を得ただけでなく、彼女自身もまた、かかわった多くの人々の人生に少なからぬ影響を与えることができたと言います。その後、看護師となり、世界中を旅して、数々の全国予防接種日に参加してきました。この女性はパディントン/レッドヒル・ロータリー・クラブに入会した後、クラブ会長となり、地区では現物抛出活動に携わり、国際大会では会場監督を務めました。また、ポール・ハリス・フェローであり、遺贈友の会の創設会員でもあります。彼女はロータリーのボランティアとして米国疾病対策センターで働くことを決意し、現在はパキスタンの疾病対策センターに勤務して3年になります。もう、この女性が誰であるかお分かりでしょう。そうです、ソルトレークシティーでも講演されたジェニー・ホートンさんです。ジェニーさんは、青少年交換プログラムの輝かしい産物です。私と妻のアンがジェニーさんに初めて会ったのは2000年、新会員として第9600地区の地区大会に出席されていたときのことでした。私たちはこの美しい青少年交換学生に心打たれ、多くを教えられました。彼女はロータリー家族の大切な一員です。

数年前、アルゼンチンのインターアクター、ソレグッド・フェトーレさんが自分のクラブについて書いた詩を、地区の行事で私に贈ってくれました。それをご紹介します。

インターアクトって お年寄りを訪問して喜ばせるクラブ  
私たち会員を町で見かけた薄汚れた浮浪者も 嬉しそうな顔をする  
インターアクトって 貧しい人たちが寒さに凍えないように  
冬の町を新聞紙や木切れを探してさまよう母親のよう

インターアクトって 魂の目から涙流す一方で微笑みを求める  
ハートフルな若者たちの集い

インターアクトって 助けあい 分かちあい 認め 認められること

インターアクトって 生まれ 生み出し 続いていくようにという神様の願い  
インターアクトって 微笑浮かべながら 恐怖と敵意に満ちた世界に  
打ち勝つために 手を差し伸べ 闘いたいと願う 小さな若者たちの集まり

それが 決して途絶えることのない インターアクト

まさにこの詩の通りです。

また、パナマに滞在していたとき、私は、長年ロータリー・ボランティアを務めておられるジュディス・カルバヨさんと出会いました。メキシコで女性の教育に携わっていたカルバヨさんは、メキシコ政府や地域の独立機関やローターアクト・クラブを対象に、どのようなプロジェクトに参加する機会が開かれているかを説明し、指導を行っていました。ローターアクト代表でローターアクトに明るかったカルバヨさんは、今ではロータリアンになりました。

数年前のRYLAのキャンプでは、最終日に参加者の一人が、RYLA委員長である私のほうに近づいてきて、個人的に話したいことがあると言いました。彼は、そのRYLAのキャンプによって一人の参加者の命が救われた事実を私に伝えたかったのだと言いました。詳しく話してくれるよう促すと、彼はその参加者について語りだしました。誰にもかまってもらえず、家族からも関心を買うことのできなかった二人の親友が、絶望の淵に立たされ、自らの命を絶ったと言うのです。自らも自殺を考えていたこの参加者ですが、RYLAのキャンプで、手を差し伸べてくれる温かいロータリアンとの触れ合いから、親身になって自分たちのことを思ってくれる人々がこの世に存在することを知ったのです。私は、その参加者の名前を覚えてほしいと彼に頼みました。すると、彼はまっすぐに私の目を見て、こう答えたのです。「僕がその本人です。僕の命を救ってくれたサニーさんとRYLAに感謝しています」

このように個人的な体験談というものは、心の琴線に触れるものです。もう一つ、お話しさせていただきましょう。私がRYLAに関与し始めた27年前の最初のキャンプに、息子のウィルが4人の参加者のうちの一人として選ばれました。カウンセラーとして私が注意深く息子を見守る中、その一週間のうちに彼は成長していきました。彼は自分にリーダーの素質があることを発見したのです。現在、彼はビジネスで成功しているだけでなく、なにより大変よい父親になりました。私がRYLAに参加するのも27年目になりますが、この夏にはウィルの娘、マーシャルが、一週間のキャンプで成長する過程を見届けました。彼女は友人たちとともに、まるで若き鷲が空高く舞い上がるかのごとく飛躍的な成長を遂げました。RYLAは、まさに魔法です。

この青少年プログラムは、今日もなお、私たちが夢に描くロータリーの魔法を見せ続けてくれています。このプログラムは、若い参加者の人生を実り多い豊かなものへと変えるだけでなく、プログラムに携わるロータリアンにとってもやりがいのある経験となります。ロータリアンになって47年、その間ロータリーのすべての青少年プログラムにかかわってきましたが、同じようにともに奉仕してきた仲間のロータリアンでロータリーを離れていった会員を私は一人として知りません。なぜでしょうか。それは、私たちがプログラムにおける感動的な体験を通じて、ロータリーと世界の未来が明るいものとなることを知っているからです。

ここにいらっしゃるロータリアンの皆さん、配偶者の皆さん、ご来賓の皆さんにおうかがいいたします。青少年交換学生を受け入れたことのある方、あるいは、ほかの形でこのプログラムに関与したことのある方は、ご起立願います。そのままご起立いただき、

次に、ローターアクト・クラブを提唱しているクラブと地区、また、ローターアクトに関与している方はご起立願います。そのままご起立いただき、

今度は、なんらかの形でインターアクト・クラブにかかわったことのある方は、ご起立願います。そのままご起立いただき、次にまいりましょう。なんらかの形でRYLAに参加したことのある方、ご起立ください。

ただ今、着席されている方はいらっしゃらないはずですが、もしいらっしゃれば、これから青少年プログラムに参加して下さるものと期待し、温かい拍手を贈りましょう。

皆さん全員が起立されているということは、私たちがいかに青少年のために尽くしているかの証です。私たちは、ロータリーで最も人気の高いこれらのプログラムに力を注いでいくのです。ガバナーとして、地区のロータリアン一人ひとりが、青少年に奉仕することによって個人的な喜びと慈愛を体験できるよう、これらのプログラムを推進していかなければなりません。

全地区のロータリアンが、ロータリーの未来を築きながら自らの人生をも豊かで感動的なものにする機会を持てるよう、一体となって努力してまいりましょう。どの地区にとっても、すべての青少年プログラムは絶対になくしてはならないものです。どうか皆さんもご自分の体験談を分かち合ってください。必ず、聞く人の心に響くに違いありません。

# 職業奉仕の重要性について

渡辺好政  
RI理事

ウィルフリッド会長、李東建会長エレクト、ロータリー・シニアリーダー、地区ガバナーエレクトの皆さん、ロータリー家族の皆さん。

私は、1993年、ガバナーエレクトの皆さんと同じ席に、皆さんと同じく、ロータリーのピンを付けて、この国際協議会の席についておりました。当時のボブ・バースRI会長エレクトは、私たちに次のように語りかけました。「ロータリーのピンを付けている人は、次のようなメッセージを発信しているのです。『あなたは私を信頼することが出来ます。私は頼りになります。私は信用に値します。私は受けるよりも多くを与えます。私はいつでもお手伝いします。』」 皆さんが付けているロータリー・ピンに対する世間の信頼は、ロータリーの創立以来、世紀を超えて、私たちの先輩が、血のにじむような努力を重ねて勝ち得たものであります。

本日、私に与えられたテーマは、「職業奉仕の重要性」であります。ロータリーの創始者ポール・ハリスは次のように述べています。「社会に役立つ人間になる方法は色々ありますが、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります。」 職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で「奉仕の理想」を生かしてゆくことをロータリーが育成、支援する方法であります。ロータリーの本質は、実に、職業の中にあります。職業奉仕こそ、ロータリーの根幹であり、金看板といわれる所以です。しかし、職業奉仕は、他の奉仕部門に比べて、極めて、難解であるといわれます。

皆さまには、目の前に、一本の樹木、すなわち、「樹」を想像していただきたいのです。それは、「ロータリーの樹・2008」であります。私は、ロータリーを一本の「樹」に喩えて職業奉仕の重要性をご説明いたします。ロータリーを樹に喩えることは、以前から、多くの先輩によって考えられています。私は、ロータリーについての私の思いを「ロータリーの樹・2008」と命名して、1905年以来、世紀を超えて、発展し、進化しつつあるロータリーに新しい息吹きを見出し、将来への多くの夢を託しながら、その多くの夢をどのような形にしてゆくかを、皆さまとご一緒に学び、実践してまいりたいと願っております。まず、「ロータリーの樹・2008」についてそれぞれの大きな位置づけを申します。「根」はクラブ奉仕であり、「幹」が、私の講演の主題であり、文字通り、ロータリーの根幹である職業奉仕、「枝と葉」は、社会奉仕、国際奉仕、「花」はロータリー財団となり、それぞれに多くの「実」を結んでまいります。

1905年、ポール・ハリスによって創始された当初のロータリー・クラブは、その歴史が示すように、はじめに、親睦・助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に、「水と栄養」を送る「根」は、「クラブ奉仕」であります。ロータリー・クラブ会員は、クラブという学校で、「相手のことに思いを馳せ、相手を助ける」という奉仕の理想を学び、その真意が、共存共栄であるとわかります。そして、クラブ会員は、「ロータリーの綱領」を基本とし、ハーバート・テラーによって実証され、国際的にも有効性が認められたロータリアンの行動規範である「四つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することから、奉仕の実践によって、ロータリアンに進化します。ロータリー・クラブの会員からロータリアンに進化して行く一連の進化過程の基盤には、公式標語となっているフランク・コリンズの「超我の奉仕」があり、現在、第二標語と考えられるアーサー・シェルドンによる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」が存在します。日本のロータリアンの多くは、この

2つのモットーを1枚のコインの裏・表と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。また、ロータリーは、理念の高唱に終わるのではなく、行動の哲学なのであります（決議23-34）。

クラブ奉仕という「根」から吸収された「水」と「栄養」、すなわち、「サービスの理念」は、ロータリーの根幹といわれる職業奉仕の「幹」に入り、「幹」の中にある「奉仕の理想」という導管を通して「社会奉仕」、「国際奉仕」という枝や葉に届き、そして、「ロータリー財団」という「花」を咲かせます。また、それぞれの奉仕活動が、すべて、お互いに助け合い、励まし合い、相働いて多くの「実」を結びます。そして、ロータリーの先輩たちが、過去において夢見ていた多くの事柄、また、現在に生きている私たちが夢として抱いている多くの事柄が、「形あるもの」となるのであります。その事柄には、ポリオ撲滅、平和フェロー、ロータリー財団奨学生、グループ研究交換（GSE）、世界社会奉仕（WCS）などの多くの素晴らしい形のある実を結んできたのであります。木のよしあしは、その実においてわかると言います。皆さまには、ロータリーの樹・2008の説明から、ロータリーの基本であり、根幹である職業奉仕の重要性が理解されたと思います。

ロータリーの一部には、職業奉仕は、難解であるが故に、ロータリーの拡大や会員増強、会員維持の妨げになっているという意見が聞かれることがありますが、事実は逆であります。世界でも、自己の利益のみを目標としたために、巨大企業の不祥事が起こっており、日本でも、食品業界のみならず、各方面での不正が多発しております。自分自身の職業が、他人のための事業であるとの認識に立つとき、ロータリーの職業奉仕の真髓が理解できると思います。歴史的に見ましても、今ほど、職業奉仕の理念を必要としているときはないのであります。「事業の倫理的水準が理想に近づいている場所でロータリーが最も栄えるとは喜ばしいことではないでしょうか」とは、ポール・ハリスの言葉です。

1987年、国際ロータリー職業奉仕委員会が「職業奉仕に関する声明」を発表し、職業奉仕は、クラブとクラブ会員両方の責務であるとされ、1989年の規定審議会で「ロータリアンの職業宣言」が採択されました。国際ロータリー理事会は、2002-03年度に長期計画委員会を発足させました。2007年度に、国際ロータリー長期計画委員会は、財団の未来の夢計画との具体的活動の統一性と整合性を図り、新しい国際ロータリー、ロータリー財団の使命、ビジョン、中核となる価値観を発表しました。そして、2007-2010年の新しい7つの優先項目を決定し、国際ロータリー理事会に答申しました。その中には、ポリオ撲滅、公共イメージ、会員増強に加えて、ロータリーに特徴的な職業倫理の高揚、職業技能の開発など具体的な実践目標を掲げ、ロータリー活動の基本である職業奉仕への取り組みが強調されました。

現在、世界中のロータリー・クラブ、地区では、職業技能の教育を支援する多くの活動が行われております。日本のロータリアンである横須賀商工会議所会頭の小沢一彦氏は、在籍されている横須賀ロータリー・クラブ全員の支援を得て、職に付けないフリーター、子育てで一旦離職した女性、母子家庭の母親などに職業訓練を行い、その人たちの就職を支援・促進することを目的とする「キャリアサポート事業」の普及に成功しました。日本では、現在、就職をすることが難しく、特に、地方での就職は困難です。スライドの元保育士の女性は、再就職の希望を持ちましたが、キャリアとスキルがなければ、自分の希望する職業に就けないことを知らされ、キャリアサポート事業によって、キャリア訓練を受け、認定書を受領して、新しい職を得て、充実した日々を送っています。なお、このキャリアサポート事業は、日本国政府にもその成果が認められ、初年度は、29億円の予算がつきました。そこで、日本商工会議所は、日本全国の517の商工会議所に対して、この事業への取り組みを奨励しています。

また、自分の職業技能を地域社会や国際社会の奉仕活動に用いた経験を持っている多くのロータリアンの実話が、私たちに感動を与えてくれます。その1つをご紹介します。米国のロータリアン眼科医、ウィリアム・ブリンカー氏とデイビッド・ブリンカー氏のご兄弟は、オハイオとオクラホマで眼科診療をしていますが、「Eye Care Mission」を結成し、戦乱で荒廃した国々に行き、貧しい人々に、眼科検査や眼鏡調整な

どの眼科診療を行っています。出向いた国々は、ベトナム、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ケニア、ナイジェリアなどです。2006-07年度RI広報賞を受賞した職業奉仕プロジェクトはロータリーのウェブサイト ([www.rotary.org](http://www.rotary.org)) で報告されています。このような新しい価値観に基づいた職業奉仕の理念の実践のために、ウィルフ・ウィルキンソンRI会長の英断によって、10年ぶりに、国際ロータリー職業奉仕委員会が立ち上げられました。

ご参会の皆さま、私たち一人一人が、ロータリー創立の原点を探り、職業奉仕倫理の高揚を掲げながら、一緒に、ロータリーの「夢をかたち」あるものにして行こうではありませんか。

# ロータリーの公共イメージ

ウィリアム B. ボイド  
元RI会長

ロータリーでは、長い間、人知れず奉仕することこそ最高の奉仕であるとされてきました。私たちはまるで秘密結社であるかのごとく振舞い、陰徳を積むことによってほかの団体を凌駕していると感じてきました。広報や宣伝などという言葉は、相容れないものでした。

しかし、時代は変わり、明確なコミュニケーションを図ることがよしとされるようになっただけでなく、必要不可欠であるとみなされるようになりました。新会員や寄付を募るにしても、協力団体を求めるにしても、すべてがほかとしのぎを削らなければならなくなった今日、広い意味での広報が私たちの将来のカギであると言えるでしょう。

ロータリーの会員は、広報の重要性を認識しています。2万3千人のロータリアンを対象に実施されたアンケート調査では、ロータリーの長期計画にどのような目標を網羅すべきかという問いに対して、公共イメージを高めるといふ答えが上位に挙げられました。ロータリーとは何か、何を行う団体なのか分からないまま、奉仕への関心を持ちながらも時間に追われがちな多忙な人々をロータリーに誘ったり、現会員をクラブにとどめたりすることは無理な話だと、会員は認識しているのです。

ほかの団体にしても、私たちに何ができるかを知らずして、協力関係を結ぼうと申し出るはずはありません。私たちは諸政府からもよく支援を仰ぐことができますが、ロータリーが特別な団体であるという認識なくしては、真剣に耳を傾けてもらうことは期待できません。地元の地域社会から支援を得ようと思うなら、私たちのプロジェクトについて知らせる必要があるのです。

今年の初めに、6大陸、6カ国の一般市民を対象に、アンケート調査が行われました。対象となったのは、地域社会の人口構成を代表する個人です。その回答の中から、私たちの従うべき方向を示唆するものをいくつかご紹介しましょう。

オーストラリアでは87パーセントの人がロータリーについて耳にしたことがあると答え、そのうちの95パーセントが、ロータリーとは地域社会を助け、奉仕する人々の集まった慈善団体であると認識していました。これとは対照的に、ドイツでロータリーを知っていると答えたのは、わずか31パーセントでした。しかも、その大半が「名前は知っているが、それ以外については知らない」と回答しています。一方、日本では認知度が低く、回答者の48パーセントが「ロータリーとは自分たちのためになることをしている独善的な人々の集まりである」という答えを選びました。このような数字を持ち出して、何もドイツや日本の友人たちを非難しようというのではなく、地域社会でより意味のある奉仕をしていくために、ロータリーへの認識を高めることがいかに重要であるかを申し上げたかったのです。

私たちは、ブランド名を確立し、守るために巨額の富を投入する国際的な大企業の真似はできませんが、地元の地域社会においてよく認知された好意的なブランド名を創り出すことを目指さなければなりません。

高視聴率を獲得しているテレビ局や最高の発行部数を誇る新聞社や雑誌社が、私たちの知らせたい数々のニュースを取り上げてくれたなら、この目標をかなえることは、いともたやすい話です。しかし、これが実現す

れば、私たちの広報問題は消え去るのでしょうか。これは起こりえないような話ですから、その結果も知りようがありません。ときには私たちのニュースが取り上げられることもあります。センセーショナルなニュースばかりを追い求めるメディアは、良いニュースを報道することを使命とは考えていません。残念ながら、涙と流血にいろどられた猟奇的な事件でなければ、報道に値するとはみなされたいようです。ですから、私たちの広報をマスコミに委ねるわけにはいかないのです。

それではどこに支援を求めればよいのでしょうか。私たちは地域社会に根ざした組織です。どの地域社会にもロータリー・クラブは存在しており、地元での奉仕を第一としています。私たちがどういう組織で何をする団体なのかは、周囲の人々が関心を持つところです。地元のメディアは地元での出来事を求めており、良いニュースを歓迎してくれます。キーワードは「ニュース」です。ささいな出来事であればメディアの取材は期待できませんが、想像力と知恵を駆使してニュースとして私たちのメッセージを伝えれば、ジャーナリストは応えてくれるはず。そして、政治家やビジネス界のリーダーも地域社会の住民ですから、彼らに連絡を取りつけるという方法に目を向けることも大切です。看板やポスターを設置したり、デパートや商店街で展示コーナーを設けたり、地元の新聞に記事を掲載したり、ラジオで奉仕広告を流したりする……私たちにとって大切な人々に届くのはこのような活動なのです。

しかし、こういった活動を成功させるには、積極的に、先手で攻める構えで臨む必要があります。ロータリー年度の始まりにメディアに連絡を取った後、向こうからの連絡を待っているだけでは何も達成できません。地元地域におけるロータリーの存在を重要と考えるなら、メディアが求めているものを提供する姿勢が必要です。どのような形でニュースを報道することを望んでいるのか、尋ねてください。新聞社は、こちらに写真を提供してほしいのか、それとも社からカメラマンを送るのか。ラジオ局は面会してインタビューを行いたいのか、それとも電話で行いたいのか。各連絡担当者を誰にすべきか。展示の場所を提供してくれるのは、どの商店街か、また時期はいつか。こういった詳細を事前に押さえておく必要があります。

国際ロータリーから助けを借りることはできるでしょうか。答えは、もちろん「イエス」です。国際ロータリーには経験豊富で優秀な広報担当職員がおり、皆さんに活用していただける資料を作成しています。「人類のために活動する」のDVDは、プロの手による質の高いもので、使い手のニーズに応じて簡単に修正することができます。そのまま使用できるテレビ用、ラジオ用、印刷用、看板用、ポスター用、インターネット用の公共奉仕広告が収められています。このDVDは各クラブに送付されていますが、RIのウェブサイトからダウンロードすることも可能です。ですから、広報に使える資料がないというのは言い訳にはなりません。

理事会は、皆さんを支えるために、この活動に少なからぬ額の予算を充てる決断を下しました。広報補助金の実施1年目に提出された申請書の数は、わずか200件でした。それが、昨年は、クラブからの申請書が3,000件を超えたため、理事会はできる限り多くの補助金を提供できるようにと、資金を増額したものです。申請は90カ国からあり、この調子で需要が増え続けたとしたなら、補助金の供給はまったく追いつかないこととなります。

そこで、各地区に一口の補助金を授与することによって、地区に責任が移行されることになりました。皆さんには、補助金の申請に備えて適切な計画を立てるための手続きを設けていただく必要があります。この補助金は自動的に提供されるものではありませんから、下準備を行うのはもちろんのこと、地区として広報用の予算を小額用意しておくのが賢明です。皆さんの責務は、地区の補助金と地区の活動にとどまるものではありません。公式訪問の際には、全クラブで広報の重要性を強調して説く必要があります。

地区ガバナーとして、皆さんにはもう一つの役割があります。それは、記者会見での対応です。やりやすいものもありますが、ときにはそうでないものもあります。友好的な記者会見に臨む場合は、言いたいことをあらかじめ準備しておくことです。ロータリーについてどのように説明すべきかを考え、会員について、また、地元や

海外のプロジェクトについても語れるようにしなければなりません。主要なメッセージを3つから4つほど用意し、記者会見に入る前に練習しておいてください。準備が整っていれば、自信をもって応じることができま  
す。予想していた質問が出なかった場合でも、なんとか自分の用意してきたメッセージを伝えてください。

青少年交換や研究グループ交換をはじめ、メディアが問題として取り上げているプログラムが地区に存在する場合は、厳しい記者会見が予測されます。この場合は、自分一人で対処しないことです。複数からなるチームの助言を受け、どんなに回答を迫られても、答える準備が整うまでは答えてはなりません。回答には、メディアの経験を持つ堅実なロータリアンと優秀な弁護士の助けを借りるべきです。あわてないことです。メディアのペースに乗せられることなく、落ち着いて回答を出すことです。このようなケースはまれですが、有事の際に備えておかれるとよいでしょう。

皆さんはこれから広報についての討論を開始し、それぞれのご経験を分かちあうこととなります。できるだけ多くを学び、次の数カ月間に準備を行ってください。そして、ガバナーの任期を終えるまでに、ロータリーについての一般市民の認識が高まり、私たちの業績に敬意を示す人々が増え、ロータリーをもっと支援しようという声が高まるようにするのだという決意を固めていただきたいと、このように思います。私たちには伝えるべき素晴らしい話があるのですから、それをぜひ広めていこうではありませんか。

# リーダーシップ

## ビチャイ・ラタクル ロータリー財団管理委員

最後の一周が最も苦しいのは、すべてのレースに通じることです。皆さんにとっては、この国際協議会も同じでありましょう。6日間にわたり渾身の思いで臨まれた集中的な研修を経て、世界各地から来年度のロータリーのリーダー中のリーダーが一堂に会したこの集いも、あと数時間で終わろうとしています。

各地区においてロータリーの会員の意義をいかにして高めるべきかに焦点を当てたこの国際協議会から、皆さんは何を持ち帰られるのか、ご自身に問うてみてください。一つ、目に見えずして非常に大切なものは、この一週間に私たちが育んだチームスピリット、すなわち団結心であります。互いに助け合い、学びあうなかで、私たちは李東建会長エレクトの素晴らしいチームとなりました。この士気は、たとえどれほど遠く離れ離れになったとしても、絶えることはありません。この精神のありようは、皆さんがクラブの役員の方々を鼓舞する上で、よい導きとなることでしょう。

ここで、この集いが単なる偶然によるものではないことを銘記していただきたいのです。年次国際協議会は、一世紀を超えてその真価を証明してきた組織の枠組みの中で行われるものであり、その意義の深さは計り知れません。

ここへ出席するために、皆さんは日常の活動をすべて中断され、仕事や家族、友人を残して来られました。皆さんのご経験とご決意、そして合わせた能力は、まさに圧倒的なものです。これより先、皆さんには大変重要なガバナー年度が控えています。「夢をかたちに」するための決意と奉仕の年、完璧への道をたどる年に備え、奉仕して下さることにロータリーは感謝を捧げます。

どのような組織であっても、最大限にその力を発揮するためには、型と機構、原則、秩序がなくてはならないと、私は考えます。ロータリーはこのすべてを備えています。組織には、時と場所との推移に応える柔軟性と順応性が求められます。ロータリーはこのすべてを備えています。また、組織には、目的、創造性、意欲、献身がなければなりません。ロータリーはこのすべてを備えています。

ここで学ばれたすべてが皆さんにとって必要となります。来年度、皆さんの地区のロータリアンは、豊かな知識と誠実さを備えた献身的で敏腕なガバナーを求めることでしょう。そして、すべての答えを皆さんに求めてくるに違いありません。その答えの詰まった場所が、この場です。ここで皆さんを導いてくれた優秀な方々は、皆さん同様、一つの信念に向けて無償で奉仕する人々です。雇いたくてもお金で雇うことのできない人物ばかりです。

現在の皆さんには、使命を遂行するのに、丸1年というたっぷりの時間があるように感じられるかもしれませんが、しかし、1年に365日しかないのは来年度も同じです。ですから、任務遂行の計画は今、立てなければなりません。この一週間が瞬間に過ぎていったように、皆さんの任期の日々も時間も一瞬一瞬も、あっという間に過ぎ去ってしまうことでしょう。

これを踏まえ、いよいよ完璧への道へと進みましょう。

完璧さとは、驚異的なことをやってのけるのではなく、ありふれたことを一生懸命に極めることではないでしょうか。

皆さん、仲間のロータリアンから榮譽と信頼とを託され、リーダーとして尊敬されていればこそ、皆さんはここに送られてきたのです。しかし、私たちは常に、すべてのロータリアンがリーダーであることを肝に銘じておかなければなりません。ロータリアンは職業においても地域社会においても尊敬される存在です。ですから皆さんはリーダーの中のリーダーという特異な立場にあるのです。このような立場にある皆さんは、謙虚さをもって権限を担いながら、賢明で有能なリーダーであらんとする機会を与えられているだけでなく、そうする責任があるのです。皆さんの成功は、目標へ向けて支えてくれる仲間の心をつかむことへの自信があつてはじめて可能になるものです。

皆さんは、具体的に何を達成する覚悟でしょうか。どのような手段を用いられるのでしょうか？ また、誰に助けを求めようとお考えでしょうか。

僭越ながら、ご自身のために、これらの質問に対する答えを書き出すようご提案申し上げます。その答えをロータリーの綱領と会長の強調事項に照らしてみるなら、ご自身が達成したいと願うすべてに網羅されていない事柄が見えてくるはずですよ。

私は日ごろより、しかるべき結果を得るには、焦点を定めなければならないと固く信じております。狙いを定めずに行う活動は実らないのが常です。強調すべきことを決めるのは皆さん一人ひとりですが、ぜひともロータリーの基本理念の骨子となる四大奉仕部門の枠組みと指針に沿って活動するよう、クラブを導いていただきたく存じます。四大奉仕部門こそ、ロータリーが草の根で息づく場所であり、私たちがクラブと地区の活動に参加する土台であり、より良く奉仕するための道しるべとなるものです。この骨子の果たす重要な役割を認識した2007年規定審議会は、四大奉仕部門を標準ロータリー・クラブ定款に組み込むという制定案を、圧倒的多数をもって採択しました。

朋友ロータリアンの皆さん、この四大奉仕部門のうちでも、特に職業奉仕部門を主眼の一つとしてご考慮いただければ、私は強く願っております。昨日は、渡辺好政理事より大変感銘深いご講演がありました。渡辺理事のご了解の下、私はここで今一度、すべての国において事業および職業の行動規範の改善が緊要に求められていることを皆さんに訴えたいのです。職業奉仕は、ロータリーの存在を他団体から際立たせ、ロータリアンがその威力を最大に発揮できる土俵です。

地区ガバナーとして、皆さんはほかのロータリアンから敬意とともに信頼を仰がれる手本となります。謙虚さと誠実さと思いやりの心を持って、ロータリアンがいかなる行動を取るべきか、その模範を示す素晴らしい機会が、皆さんには与えられています。

来たる年度の強調事項が明確になった今、既にいくつかの決断をしておかれるのがよいでしょう。皆さんの前には、膨大な日課がうず高く積み重なっているように感じられるかもしれません。それらを即座に片付け、机の上に積んだままにしておかないことです。そのような事務的な仕事の山を見るだけで、肝心な真の任務に必要とされる熱意と活力が吸い取られてしまいます。ちなみにクラブ役員および地区のチームも同じ決意を固めるなら、皆さんのお心も大変軽くなるとういうものです。

常に毅然とした姿勢を保つ一方で、ロータリーが任意の団体であることを忘れてはなりません。自分のチームメンバーに対して、あたかも会社の部下であるかのように、「これをやりたまえ、さもなければ…」と命令することをしてはなりません。皆さんは、彼らを説得し、明確な責務を託し、できる限りの支援をしなければなりません。助言は極力控えることです。ロータリーのために彼らが実施する活動はすべて彼ら自身の手によるもの

であるという自立を促すと同時に、結果に対しては責任が求められ、実績が見届けられるということを明確に伝えておくべきです。このような方針は、ガバナーの荷を軽くし、ロータリーにおけるチームの関与を活発にします。

クラブへの公式訪問はできるだけ早めに行ってください。自身の仕事を正確に判断するためだけでなく、将来の指導力を探るためでもあります。クラブの中から将来のリーダーを開発するのは、皆さんの義務です。任期を迎える前に、地区のロータリアンを観察されておきましょうお勧めいたします。熱心さと勤勉さと倫理的な行動とがうまく調和された人物を探し、地区に奉仕するチャンスを提供するのです。また、年度を通じて、若い層の会員にも目を向け、クラブ内でリーダー的な役割を果たすよう奨励してください。彼らが、今後、地区のリーダー、ロータリーの国際的なリーダーとなれるよう育てていくのです。私たちは皆、これまで私たちを育ててくれたロータリーのリーダーに負うところが多いと言えます。私たちにできる唯一の恩返しは、私たちの後にリーダーとして率先する人材を育てることです。

そうです、皆さん、今日、地区を率いることには、かつてないほど難しい責任が伴います。各地区、クラブ役員、委員会委員がそれぞれの役割を担っています。

ロータリーが期待するリーダーシップとは、知性と誠実さと勇気だけでは足りません。ガバナーとして成功される皆さんは、時折の逆流にあって屹立(きつりつ)し、敗北から這い上がっては、究極の目標に向かってひたすら進む力を身につけていなければなりません。過去の過ちを教訓とし、その経験から学ぶことです。過ちを恥ずることなかれと、私は申し上げたい。今日ここに、昨日より少し賢くなった自分がいるのだと思うことです。

リーダーである皆さんは、ときとして勇気を試される場面に遭遇することでしょう。その際に重要なのは、自分の信念を貫き通すことです。かつてマーガレット・サッチャー元英国首相がこのような断言されました。「道の真ん中に立つことは非常に危険です。両側から車に押しつぶされてしまうことになります。」このような時、私たちはいかに対処すべきでしょうか。このような状況に遭遇し、道のどちらかの側に移動した場合、問題に対する自分の見解を表明したことになるのを忘れてはなりません。そして一旦その立場についたなら、周りからどんな批判を受けようとも、どのような困難が待ち受けていようとも、自分の立場を死守しなければなりません。

信念とは経験から自然に生まれ、育っていくものです。皆さんがチャンスに気づき、難しい選択を行い、意識を集中させ、ときには勇敢な決断を下すことができるなら、命の限りを精一杯生きていると言えるでしょう。生きていればこそ、喜びと悲しみ、高揚感、そして自らの取った行為の結果が招いた苦しみ、これらを感じることができるのです。これが、信念というものです。そして、これが真の指導者のあるべき姿です。信念が深まれば、それに比例してロータリーへの貢献も深まるのです。私自身、政界、ビジネス界、そしてロータリーにおいても、自分の信念を貫くために決断を迫られたことが何度もありました。自分のことを勇者と胸を張って言えるわけではございませんが、そのような決断には勇気が求められました。良きリーダーは堅忍不拔であるだけでなく、勇敢でもあります。勇敢な精神とは、堅忍不拔のそれとは違います。堅忍不拔とは、危険や逆境や苦しみを決然として耐え抜く力ですが、勇敢な精神とは、危険を冒し、人跡未踏の地へ足を踏み入れ、成功を目指しながらも失敗を恐れず、冒険に立ち向かってゆく気概のことです。つい先ごろもこのような状況に立たされたばかりです。私は、自分の信念と威厳を損ねてまでその闘いを勝ち抜きたいとは思いませんでした。結果、負けることにはなりましたが、私は何にも恥じることなく凛として立っていることができます。

会長エレクト研修セミナーは、皆さんにとっては指導力を発揮できる最初の機会となりましょう。「夢をかたちに」という2008-09年度のテーマとともに会長エレクトの強調事項に力を入れる機会です。これは夢をみようというテーマではなく、他者の夢を現実のものとするために立ち上がらんとする会長エレクトからの切実なる訴えであることを、どうかご銘記ください。世界平和を願うような大きな夢もあり、十分な食べ物にありつく

ことや読み書きができるようになりたいといった当たり前と思えるような夢もあるでしょう。ロータリーのリーダーである皆さんは、地区に対して抱く夢をどのようにかたちにしていくかを考えなければなりません。

また、このテーマをクラブにも伝え、それに沿って具体的なことを実現するよう奨励しなければなりません。7月の第一週目に発行が予定されている最初の月信とその直後に開始される公式訪問は、このメッセージを地区の全ロータリアンに届ける絶好の機会です。これに先んじてPETSと地区協議会で伝えるのもよいでしょう。いずれにしても、これはガバナー自身が行うべき任務です。ガバナー補佐に任せられる仕事、あるいは任せるべき仕事は多数ありますが、公式訪問はこの限りではございませぬ。すべてのクラブをご自分の足で回り、小さなクラブであっても、大きなクラブと等しい熱意を持って語りかけてください。たとえわずか10名の会員しかいないクラブであっても、ありったけを投げかけていただきたいのです。それも指導力の証となります。皆さんの真心と意欲が通じるなら、翌年、皆さんの後任が同じクラブを訪問するときには、会員が15名、あるいは20名に増えているとも限りませぬ。

この数年においてロータリーの会員数が世界的に降下をたどっていることから、私たちは会員の勧誘に必死になるあまり、ロータリー会員基盤の原則の真髄を忘れがちになっています。新しい会員を誘う際の規則と手続きというものを、私たちはすっかり忘れ去っています。職業分類の原則は無視され、会員の資格にも注意が払われていないのが現状です。加えて、会員候補者にロータリーに関する情報を提供したり、出席義務や親睦や奉仕の重要性を説いたりするクラブへの同化のプロセスが省かれてしまっています。永遠の原則を守らなかったがゆえに、私たちは永遠の価値観を失ってしまいました。従って、今日の企業幹部や経営者たちがロータリーのような団体に入会したいと思わなかったとしても、それは当然の結果と言えましょう。彼らの視点からすれば、ロータリーもあまたあるほかのクラブとなんら変わりはないのです。

そうであるなら、今、私たちが成さなければならない仕事とは、ロータリーへの揺るぎない信念、新たなる信念を同胞ロータリアンに与えることです。すべてのロータリアンは、ロータリーの会員となることは、ゴルフクラブや囲碁クラブの会員となることとは異なるのだとする信条を支持する必要があります。つまり、基本的な原則に戻り、過去100年あまりにわたり、親睦と奉仕において私たちのクラブの発展に寄与し続けてきた永遠の価値観を尊ぶことです。

数年前、同じクラブの会員からクラブをやめるつもりでいると打ち明けられました。その理由を聞いてみたところ、彼はこう言いました。「ロータリーは何もしないし、自分にも何の恩恵も与えてくれない。一体、誰が必要としているのだろう」

私は答えませぬでした。このような質問をしてくる人間には、たとえどのような形で説明したところで、分かってもらうことは無理だと察したからです。しかし、ある意味において彼は正しいのです。多くの場合、行動を起こすのはロータリアンであって、ロータリーは何もしませぬ。では、何の恩恵もないというのは本当でしょうか。私たちは、結婚や宗教や職業など、価値あるものから何かを得ると同様に、ロータリーからも何かを得ていると、私は思います。自分が投資しただけのものが得られるのではないのでしょうか。

それでは、ロータリーを必要としているのは誰でしょう。

何年も前に国際協議会の席で、二人の次期ガバナーを前に私が話をしたとき、この会員が一緒だったならと思わずにはいられませぬ。アジアから来ていたロータリアンに協議会の後の計画を尋ねたところ、彼は、家畜の人工授精について学ぶためにウィスコンシン大学を訪問する予定だと答えました。彼の国では主な蛋白質源を乳製品に頼っていることから、牛乳の生産量を改善する方法を検討しているということでした。

私が口を挟む間もなく、オーストラリア出身のもう一人のガバナーが「ちょっと待ってください」と割り込んできました。「私の地区の乳牛は世界に誇れる質ですから、私たちのやっていることをお教えしましょう。適切に活用してくれるなら、地区の世界社会奉仕を通じて、必要なものをすべて提供してあげますよ」と、彼は申し出ました。

同じ小さな襟ピンを着用して、たまたま同じ場所に居合わせた二人が、出会った途端に意気投合し、奉仕という共通の目的の下に、互いを信頼し合ったのです。この出会いのおかげで、何万人、いや何百万人という人々が恩恵を受けるに至ったことを私は思います。

戦後間もない1950年代の終わりのことです。4歳の少年が2歳の妹を抱きかかえて、粉乳の配給を受けるために並んでいました。妹はミルクにありついたものの、兄のほうは年齢でひっきりミルクをもらえませんでした。4歳児に与えるミルクがないほど、粉乳は不足していたのです。この光景を目撃していた私にとって、先の二人のロータリアンによる会話がいかに感動的で嬉しいものであったか、お分かりいただけただけでしょうか。この二人は、「夢をかたちに」されたのです。

それでは、ロータリーを必要としているのは誰でしょう。

この質問は、タイ北東部にある第3340地区のソムチャイ・キアラナイパニット元ガバナーに答えていただくのが一番よいかもしれません。ある日、ソムチャイさんの事務所のドアが開いて、車椅子の男性が入ってきたと言います。片足しかないその男性は、妻と娘のために食べ物を探しにタイとカンボジアの国境沿いを歩いていたときに地雷を踏んでしまったそうです。ロータリーには、地雷犠牲者のために義足を提供してくれるプロジェクトがあると聞きつけて、やって来たのです。何か月も経ったある日、胸を張り堂々とした健康そのものといった男性が同じドアをくぐってきました。その男性は涙ながらにソムチャイさんとロータリーにお礼を述べました。大きな障害を負っていた彼が、一人で歩き、職を得て、家族にもまともな生活を送らせてやることのできるようになったのです。

誰がロータリーを必要としているのか。

その答えは、ロータリアンが約束を守ったおかげで、ポリオという悲惨な病の犠牲になることなく元気に暮らしている何億という子供たちの中にあります。

誰がロータリーを必要としているのか。

その答えは、ロータリアンが分かちあってくれたおかげで食べ物に困ることなく暮らしている世界中の子供たちの中にあります。ロータリーの後援する学校で読み書きを学ぶ少女たち、ロータリーの職業訓練プログラムで技能を身につけている少年たちの中にあります。一瞬のうちにすべてを失った無数の津波の被災者に聞いてみてください。ロータリーがただちに救援にやって来て、将来への希望をもたらしたことを。彼らに聞いてみれば、ロータリーを必要としている人がいるかどうかという質問は決して生まれてはこないはずです。

しかし、最後にロータリーを必要とするのは誰か。

それは皆さんと私です。人の役に立ちたいという内なる願いを叶えるために、また、「夢をかたちに」するために、ロータリーを必要としているのは、皆さんと私と世界中のロータリアンです。

ですから、地区とクラブに戻り、ロータリーの奉仕とはこちらの都合に合わせて行うものではないのだと、どうか仲間の会員の方々に伝えてください。ロータリーの奉仕とは、常に新たな時代に取り込み、新たな挑戦を受けて立ち、新たな門出を迎え続けるものなのです。

いよいよお別れのときが来ましたが、私はロータリーに敬意を表します。そして皆さんをここに送り出してくれたクラブに敬意を表します。また、この素晴らしき私たちの組織が尽くしてきた業績と忠誠に敬意を表します。そして最後に、私は皆さんに敬意を表します。明るい明日に向かって、自信と勇気を携え、完璧への道へとそれぞれの地区を率先してくださる皆さんを称えます。

それでは皆さん、出でて奉仕し、「夢をかたちに」していただきましょう。栄華と栄誉に勝る勲章を勝ち取らんと勇み出で、先頭を切ってください。今、皆さんは、人の心を射止める闘いを率いるのです。

# 会長の閉会の辞

ウィルフリッド J. ウィルキンソン  
RI会長

2008年国際協議会もいよいよ閉会の時が近づいてきたということは、ここで皆さんとともに過ごす時間も残すところわずかです。この経験が私にとって誠に素晴らしいものであったように、皆さんにとっても同様であったことと願っております。国際協議会に実際に参加できるのがほんの一握りのロータリアンであることを考えると、私がこれまで延べ11回参加できたことは、誠に光栄というほかごぞいませぬ。1971年、次期地区ガバナーとして初めて参加した後、理事として3度、財団管理委員として5度参加し、昨年は会長エレクトとして、そして今回、李会長エレクトの国際協議会に参加させていただきました。この間、私は毎回のことながら、まるで電流のごとき大きく力強い可能性と希望と決意のほとぼしりを感じてきました。皆さんがこれから迎える年度は、可能性と機会に満ち溢れた年度です。皆さんが成功を決意されるなら、それは成功の年度となるでしょう。「夢をかたちに」するチャンスとともに、この年度がやってくるのはたった一度きりです。

李会長エレクトは、皆さんに大変尊い仕事を託されました。水、保健と飢餓、識字率向上という強調事項を通して、地元はもとより世界中の地域社会における子供の死亡率を低下させるために、感動と熱意を喚起しながらそれぞれの地区を導くという仕事です。また、ゲイツ財団がポリオ撲滅に向けて寄せた1億ドルの寄付に等しい額を調達するのを手伝うこと、これも皆さんの仕事です。この仕事によって、ポリオのない世界を築き、子供たちの命を救うことができます。簡単にはいかない場合もあるでしょう。重たい荷物を背負わねばならないときもあるでしょう。しかし、昨年もこの場で申し上げたように、意義あることを成し遂げるには軽い荷を選ぶのではなく、重荷に耐えうる強さを自らに期待したいものです。皆さんはその強さを備えていらっしゃいます。今日、ここにおられることが何よりの証拠です。

皆さんは、一人残らずこれからの任務に対する準備が整っています。皆さんは、ロータリーの次期地区ガバナーとして最高の研修を受けられたのです。ケン・モーガン・モデレーター、サニー・ブラウン・モデレーター補佐、そしてホアン・ペドロ・トロバ会場監督主任が、最高の協議会を実現してくださいました。皆さんには才能豊かで献身的な李会長エレクトと優秀な理事会がついています。皆さんには、地区だけでなく、RIと財団のリソースと助けがあります。それに加えて、皆さんが必ず成功すると信じて疑わない私たちがおります。

皆さんには一寸たりとも無駄にはできない大きな仕事待ち受けています。今から準備と計画を進めておけば、それだけ実りのある年度が約束されることになるでしょう。地区では、現在どのようなプロジェクトが実施されているか、また、クラブではどのようなことが行われているかを把握し、それぞれにとって、「夢をかたちに」する最良の方法は何かを考えることです。そして、水プロジェクト、保健と飢餓救済プロジェクト、識字プロジェクトをどのような形で、子供の死亡率の低下に結びつけることができるか、こういった問題の解決には、皆さんの技能と専門的な知識が必要とされます。

地区ガバナー・エレクトの中でも、このように早い時期に研修を受けられたのは、皆さんが初めてです。従って、これまでのエレクトに比べ、皆さんには任務に就くまで数週間の余裕があります。ぜひ、これを生かしていただきたいものです。地区に戻られましたら、研修資料をじっくりと読み返し、疑問な点があれば、尋ねることで。子供の死亡率の根底にある問題についてさらに詳しく学ぶために、ほかのロータリアンの助けを求めたり、インターネットを活用したりするなど、地元のリソースを利用していただきたいと思ひます。

そして、この協議会で得た勢いとエネルギーをここで絶やすことなく、それぞれの地区へ持ち帰っていただくようお願いいたします。現ガバナーからの指導を請い、元ガバナーからも経験を聞き、地区で成果のあがったこと、あがらなかったことを把握することです。まだまだ先のことに思われるかもしれませんが、1年後には、皆さんの後を継ぐ新地区ガバナー・エレクトが誕生するのです。後任者を指導し、継続性が維持されるよう努め、ロータリー指導者という鎖の頑丈な輪の一つとなっただきいただけることを願います。

「夢をかたちに」というテーマに向けて就任年度の準備に励まれると同時に、クラブ会員に対して現行のプロジェクトに積極的な参加を促すことによって、引き続きロータリーは分かちあいの心であるを世界に示して下さるようお願いいたします。今年度、まだ実践されていない方がいらっしゃれば、新会員1名を入会させるよう極力努めてください。そして、今年度を引き継ぐのは皆さんですから、現ガバナーから学び、支えることにも、ぜひ専念していただきたいと考えます。

ロータリー指導者という鎖は、ロータリーの発展の鎖でもあり、私たち一人ひとりがいかにロータリーを分かちあい、「夢をかたちに」できるかにかかっています。これが、親睦と友情と奉仕の灯をともし続ける唯一の方法です。この仕事は私たちの肩にかかっており、また、皆さんの肩にかかっているのです。

# 会長エレクトの閉会の辞

李東建

RI会長エレクト

皆さんと分かちあいたい話があります。

ある朝、一人の老人が海辺を散歩していました。海辺にやってきたのは、静かにじつくりと考えるためでした。ずっと先に、一人の若い少女が踊っているような姿が見えました。老人はその少女が何をしているのか気になり、そちらのほうに向かって歩いていきました。さらに近づいていくと、どうやら少女は踊っているのではなく、なんと、ヒトデを一匹ずつ拾い上げては、海の中に放り投げていたのです。

老人は、少女に向かって尋ねました。「何をしているのかね」と。

少女は答えました。「ヒトデを海に返してあげているのよ。潮が引いてきたから、このままにしておいたら、死んでしまうわ」

老人が浜辺を見渡すと、そこはどこもかしこも一面ヒトデで覆われていました。

「しかし、ヒトデは数え切れないほどいるし、浜辺は何キロもある。おまけに潮はものすごい勢いで引いている。君一人で一体何ができるというのかね。無駄なことだとは思わんか。ヒトデを助けることは無理なのだよ」 老人はそう言い聞かせました。

しかし、老人が話している間も、少女は一匹ずつヒトデを拾っては投げ入れ、拾っては投げ入れるという動作を繰り返していました。老人が話し終わると、少女はしゃんと背筋を伸ばすと、もう一匹のヒトデを海に投げ入れ、老人に向かって微笑みながらこう言ったのです。「ほら、私はあのヒトデを助けることができたわ」

老人は、その少女が大切なことを自分に教えてくれたのだと気づきました。

終わりの見えないような途方もなく大きな仕事を目の前にしたとき、始められる場所は、唯一私たちが現在立っている場所だけです。毎日3万人の子供が死んでいくというおぞましい現実には、とても歯がたたないことのように思えます。この現実を変えるために、一体どこから手をつければよいのか見当さえつきかねる悲劇です。

私たちはすべてを解決できるわけではありませんが、今の話の中でヒトデを海の中に投げ返していた少女のように、できることをしなければならぬのです。たとえたった一人の命であっても、救わないより救ったほうがはるかに良いのは当然です。毎日3万人の命は救えないにしても、10人、100人、もしかしたら1,000人の命を救えるかもしれません。その救われた一つひとつの命の重みがいかほどのものか、私たちは知っています。

この仕事のとてつもなく巨大であることは事実ですが、根底にある問題が理解できれば、どこからどのように着手すべきかが見えてきます。私たちは、まず子供の死亡率の根源に立ち返り、最大の成果が期待できるところから始めます。私たちは、極めて単純明快な計算の下に活動の方向性を決めるべきです。すなわち、持てるリソースを考慮した上で、長期的に最も多くの命を救える活動を主眼とするのです。リソースを公平に分

配することに努めると同時に、それをどうすれば最大限に生かすことができるかを考えるのです。新聞記事になったときに見栄えが良いとか、訪問者に自慢できるようなプロジェクトといったことに、私たちは頓着しません。私たちは、見知らぬ子供たちの命を故郷の子供たちの命と同等に尊ぶのです。私たちの下す決断は、余計なプライドや褒章に惑わされることなく、生と死の計算のみに基づくべきです。子供の命を救うという目標をしっかりと見据え続けるのです。「夢をかたちに」するために、私たちは、体と心と頭とを使うのです。

この研修の場で、皆さんは実に多くを学ばれました。懸命に研修をこなされた皆さんは、この先どのような仕事を待ち受けているか理解していらっしゃることでしょう。皆さん一人ひとりがその任務を成功させることができるか否かが大きなカギを握っています。

この場を去った後に、もしも落胆や不安に襲われることがあったら、私たちは大山の麓に立たされているのではないことを、どうか思い起こしてください。私たちは既に登り初めているのです。それは、ロータリアンが何年も前から、水、保健と飢餓、識字を強調事項として奉仕プロジェクトを実施してきたことから、子供の死亡率の低下に取り組んできているからです。私たちは、これまでの知識と経験に頼り、過去のプロジェクトの成功例を土台とすることができます。また、多くの非政府団体や政府、諸機関が協力してくれています。大きな献身と熱意によって、既に多くのことが成されているのです。

私たちは、共通の信念の下に世界中から結束した120万人というロータリーの巨大なリソース、ロータリー財団のリソース、そして32,000のクラブの知恵と専門技術と熱意というリソースの上に、さらに努力を重ね、「夢をかたちに」していかなければならないのであり、また、そうできるはずなのです。

われわれは、みなロータリアンです。すべての命を救うことはできずとも、たった一つの命を救うことができれば、それは尊い行為であると、私たちは知っています。ビル・ボイドRI元会長はおっしゃいました。「たとえ完璧な世界を築くことが無理であっても、だからといって努力を怠ってよいということにはなりません。現在住んでいる世界より、もっと良い世界を後世に残すことができたなら、私たちは成功したと言えるでしょう」

来たる年度、皆さん一人ひとりが、世界の子供たちの「夢をかたちに」するために、最善を尽くして下さること、そして、現在よりも良い世界を残して下さると、私は信じております。皆さんは、必ず成功します。

# 私の歩んだロータリーの旅路

## ローナ・ボイド RI会長の配偶者

本日は、配偶者の立場からロータリーとともに歩んできた私の旅路についてお話したいと思います。その前に、私たちは文化も育った家庭も果たさなければならない義務や事情もそれぞれに違うため、一人ひとりの旅路もまたそれぞれに異なるものだという事を、心にとめておいていただければ幸いです。

私自身はロータリアンではありませんが、これまでずっとロータリーの仕事にかかわってきました。父親がロータリアンでしたから、少女の頃からクラブの行事のためにケーキを焼く母を手伝ったりしていたことが、今でも思い出されます。父のクラブでは、毎年、会員が音楽会などの催しに参加するお年寄りの方を車で送り迎えし、アフタヌーン・ティーに招いていました。父がいつも運転手を務め、母はお茶菓子を作っていました。

私が出会った当時のビルはすでにJayceesという団体に奉仕に携わっていましたので、ロータリーへのお誘いを受けたときは、二つ返事でお受けしました。それからは、ほかのロータリー会員の奥様たちと親しくなり、親睦活動を楽しむようになりました。

ビルがクラブ会長を務めた年は特別思い出に残る年でした。そして当時は地域代表と呼ばれていたガバナー補佐の役割を引き受けた年は、私にとって、ロータリーをもっと広い視野から見る機会を与えられた年でした。国際ロータリーに参加し始めたのもこの年からで、ロータリーが世界中に及ぼしている影響力を知るようになりました。また、恵まれない人々のためにロータリアンが実施しているプロジェクトについても、多くを学びました。

ビルが地区ガバナーに指名されたときは本当に驚きましたが、大変素晴らしい年になりました。私と同じように皆さんにもこの特別な年を精一杯楽しんでいただき、与えられた機会に存分に参加していただきたく思います。多くの友人を得た上に、自分自身も貢献する機会を得ました。ビルがガバナーになった年は、ロータリーに女性会員が存在しなかった時代です。フロリダ州、ボーカトーンで開催された国際協議会には、今日のような配偶者のためのプログラムもありませんでしたので、参加費用の大半は自己負担でした。後になって、国際ロータリー理事会によってロータリーが配偶者の費用を負担することに決められました。その結果、配偶者のためのプログラムが設けられ、このような本会議の機会が提供されるようになったのです。

最近では、クラブ会長の配偶者の方々自らが考え出したプロジェクトに関与している姿を見受けることができ、大変嬉しく思っています。また、地区ガバナーの配偶者の方々もご自分たちの手で地区のプロジェクトを率先する傾向が高まっています。昨年は、オーストラリアの地区ガバナー配偶者が全地区を巻き込んでの辞典プロジェクトを組織した例がありました。ほかにも募金活動のためにガバナー配偶者が発行した料理のレシピ本をよくいただいたりしますし、男性配偶者がゴルフ・トーナメントを開催して資金を調達したという記事を読んだことがあります。

ビルがガバナーを務めた年、私は青少年交換の週末プログラムに参加し、研究グループ交換チームの選考に携わり、RYLAのコースを受け、ローターアクトにも積極的に関与しました。クラブ訪問の際には夫に付き添い、当時女性会員が一人としていなかった中で、私は会員の奥様方と話すことによって貢献させていただ

きました。私たちの地区大会委員会はロータリアンが夫婦で委員を務める形でしたので、夫人たちは地区大会のあらゆる面で力を発揮することができ、場合によってはロータリアン以上の活躍をみせるという例もありました。

その翌年からビルは、地区内での仕事のほかに国際的な委員会に関与する機会がますます多くなり、研修リーダーの役目が回ってきました。これからの数日間、研修リーダーの配偶者の方々が貢献されるお姿を皆さんもご覧になることと思います。会長代理として多数の地区大会を訪問する機会をいただいたことも、ほかの地区におけるロータリーの活動を間近に学べる大変ありがたい経験でした。皆さんもぜひ、会長代理の配偶者の方々とお話しされ、意見を交換し合うことをお勧めします。

ビルが国際ロータリー理事を務めた2年間には、ロータリー研究会をはじめとする数多くの会合に出席し、多くの配偶者の方々と出会い、交流する機会に恵まれました。

ビルが国際協議会のモデレーターを務めた2004年、私はグレン・エステス元会長の妻であるメリー夫人とともに、配偶者のプログラムを作成しました。二人で主題とお招きする講演者を考えました。協議会の会期中に、研修リーダーの配偶者の方々に協力することと配偶者プログラムを監督することが私の役割でした。

この国際協議会で、皆さんには現理事、RI元会長、研修リーダーの配偶者の方々に会いする機会があります。円卓討論会では、どうぞためらうことなく積極的に参加して、ご意見を述べ、たくさんのことを学ぼうという姿勢で臨んでください。ここでの時間を最大限に生かしていただきたいと思います。

このように多くの役割を引き受けながらも、私は夫とともにニュージーランドの貧しい地域にある中学校を毎週のように訪れ、読書と作文の手伝いをしていました。学期末には生徒のためにささやかなパーティーを開き、小さなプレゼントを渡しました。これは何にも変えがたい経験です。皆さんもそれぞれの地域で誰かの役に立てるプロジェクトを探し、実行してみたいかと思っています。

ビルが国際ロータリーの会長として指名を受け、それが承認されたとき、私たちの人生が大きく変わることを私は覚悟しました。その時点で私たちは、名実ともに「ロータリー家族」を実践し、すべてをチームとしてやっつけていこうと決めました。そのとき既に、私の頭の中にはテーマ用のネクタイとスカーフにぴったりだと思えるアイデアが浮かんでいました。そこでエバンストンに到着してから着々とそのデザインの実現に向けて事を運びました。なんと、私はネクタイとスカーフのデザインを決めてから、ジャケットの色を選ぶという、従来のやり方とはまったく逆のやり方に成功したのです。あのネクタイのおかげで、皆さんは私たちの会長年度を覚えてくださっているのではないかと思います。

自宅の整理などを行った後、私たちは2年間の予定でエバンストンに移りました。会長と会長エレクトにはエバンストンにそれぞれアパートが用意されています。もちろん、年間の3分の2は世界中を飛び回っていますから、そこは基地のようなものでしかありません。エバンストンで理事会が行われている間には、理事の配偶者の方々とごいっしょにプロジェクト実施地を視察したり、シェルターのような施設を訪問したり、恵まれない人々のために毛布を作ったり、絵本を集めたりしました。

私たちが訪問した国は40カ国にも上ります。ひとところに一泊しかできない強行軍や、荷造りに明け暮れるなど、楽ではない面もありました。ニュージーランド人にとっては暑さが耐え難い国にも行きましたし、長引く旅もあり、疲労が出てしまうこともありました。それでも、行く先々で出会うプロジェクトとロータリアンから新しい力をいただき、前に進むことができました。ビルといっしょに旅を続けることができ、どこへ行っても温かく迎えていただけたことを、私は本当に幸運に思います。涙が抑え切れなかったことも何度もありました。私たちが訪れたプロジェクトのいくつかをご紹介します。

私たちは2004年12月に津波に見舞われたタイ、スリランカ、インドとインドネシアの東海岸全域を訪問しました。世界中のロータリアンの支援を受けて、被災地のロータリアンが行っていた膨大な救援活動と復興作業は見事なものでした。多くの学校や家が建てられ、孤児院や診療所もあちらこちらに設立されました。そしてたくさんの漁師が新しい船や網や家を提供してもらい、再出発の機会を得ていました。

学校もたくさん訪問しました。国の将来のためになる最大の投資が教育、特に女子の教育であると、皆さんも思っているのではないのでしょうか。世界中のロータリアンが識字教育に向けて絶大な支援を寄せています。開発途上国ばかりではありません。私たちは、ここアメリカ、ニューヨーク州のロチェスターにある貧しい地域の学校を訪ねました。そのとき、その学校の識字教育を支援していた地元のロータリー・クラブが、各種の識字プロジェクトを実施するために、さらに5年間の支援を約束する契約を結んだばかりでした。

そして、義肢を作っているクリニックを何軒も訪れ、ロータリーが提供する義肢の恩恵を受けている人々がたくさんいることにも驚きました。ウガンダでは交通事故で手を失った拳銃、仕事も失ってしまったという若いタクシーの運転手さんに会いました。その彼にロータリーが50米ドルの人工の手を寄贈したおかげで、この男性は運転手としての仕事に復帰して、生計を立てるめどがついたそうです。

ロータリーによって開設された移動眼科クリニックも多数存在します。ブラジルの北部にある移動眼科手術室は、まさに目を見張るものでした。眼科専門医であるロータリアンが患者の名簿を手に手術室とともに国内の遠隔地を旅していくのです。別のクリニックは学校を巡回して、子供たちの視力検査を行った上で、治療が必要な場合はその相談も受け付けるというものでした。

非常に感動的だったのは、障害のある子供たちに音楽を教えるポーランド、ルブリンにあるポール・ハリス高校を訪問した時のことです。授業見学が終わった後、私たちは生徒たちによるコンサートに出席しました。大きな喜びを感じながら一心に演奏する彼らの姿に、すべての観客が心を打たれました。

2年間の私たちの旅のしめくくりは、ソルトレークシティで開かれたRI国際大会でした。国際ロータリーの職員の皆さん、国際大会委員会、ホスト組織委員会から、多大なご支援をいただきました。参加された方々は、楽しんでくださったことと思います。

現在、私たちはニュージーランド、オークランドに戻り、孫たちといっしょの時間をすごしています。ビルは、再びロータリー・クラブの一会員に戻りました。

こうして私の歩んだロータリーの旅路をお話する機会を得たことを、大変嬉しく思います。ロータリーの配偶者の役割は、皆さんと配偶者とが望むところであり、決めることです。ビルと私の場合は、二人でチームとしてご奉仕しようと決め、それが功を奏したと言えます。皆さんも、皆さんなりのやり方で、配偶者としてロータリーに奉仕するのがよいのではないのでしょうか。これからの特別な一年間が、皆さんにとって素晴らしいものとなりますよう、また、私と同じようにそれぞれの旅路を大いに楽しんでいただけますよう、お祈りいたします。

# ロータリー配偶者の役割

## ジュリエット・リズレイ RI財務長の配偶者

あなたの配偶者がロータリーの地区ガバナーになると初めて聞いたときのことを覚えておられますか。そのとき、ロータリーやガバナーの役割について、どんなことをご存知でしたか。もしかするとたくさんご存知だったかもしれませんが、私たちの多くの者にとって、答えは、「よく知らなかった」だと思います。

ガバナーの役割を学ぶのは割合簡単ですが、皆さんや私のために、ロータリーの配偶者の役割について書かれた資料は、どこを探してもほとんどありません。ロータリー世界のおよそ530の地区で使える、簡潔な定義などありません。場所が異なれば、習慣も異なります。すぐお隣の地区でも違う場合があります。そして、複数の国から成る地区では、事情がさらに複雑です。

もちろん、文化を超えて、微妙に異なるものは数多くあります。たとえば、家庭料理のレシピがその例です。テキサス・チリでも、イタリアン・ミネストローネでも、天ぷらでも、どれほど多くのレシピがあることでしょうか。そして、ブラジル、アルゼンチン、南アフリカでバーベキューの料理法といたら、きりがありません。このような大切にされているレシピのように、無数の微妙な違いのある私たちが、ロータリーで特別なグループを構成するのです。

では、皆さんは配偶者として、2008-09年度に何をしたらよいのでしょうか。ガバナーの配偶者としての、正しいあり方や間違ったあり方というものはありません。すべて、固有の事情によるのです。つまり、皆さんの個性や地区の文化次第です。

これから数分間、この一見曖昧なようで、実はとても現実的な役割についてお話したいと思います。皆さんの中には、「まだ無理だ」と思っている方がいるかもしれません。「いろいろ思案中」の段階の方もいらっしゃるでしょう。もちろん、ここに座っている方の中には、2008-09年度の綿密な計画をすでに立てた方もいらっしゃるでしょう。各自がそれぞれ異なる準備段階にあります。ロータリー年度を、どれもこれも美味しい何百種ものフレーバーを売るアイスクリーム屋にたとえるなら、まだ、調理室でミックスされている段階の人もいれば、半冷凍状態の人もいる、またすっかりできあがった人もいる、という具合です。フレーバーやスタイルはさまざまで、それぞれを作るのにかかる時間も異なります。アイスクリームの話ではなく、皆さんの来年度の計画では、あなたのミックスにどのようなフレーバーやどのような要素が入るでしょうか。

歴史の果たす役割があり、皆さんはこれまでの歴史を土台に歴史を織ってゆきます。ロータリーは過去1世紀の間に大きく変わりました。動的な組織であり、百余年分のロータリー配偶者と百余年分のストーリーがあります。ローナ・ボイドさんは今日のスピーチで、ご自分が通った旅路の素晴らしいお話をしてくださいました。私たち一人ひとりに旅路があります。そして、一人ひとりにとって、この旅路のストーリーは違うものになります。ロータリーのリーダーのまるで一部であるような願望や夢や情熱について聞いたとき、どう感じましたか。あなたの思いは、内向的に自分へと走り、自分にやりくりできるだろうかと考えましたか。私たちのほとんどにとって、地区ガバナーを家族に持つと、普通は何らかのやりくりが必要になります。

ロータリーは燃え尽くすような情熱となり得ます。地区ガバナーはロータリアンの中でも、最も熱意に溢れ、最も関与し、最もつながっているロータリアンであることが多いのです。ロータリーは物理的な空間まで占領し始めます。書類の山ではなく、Eメールや電子形式の文書のある時代で、本当によかったですね。でも、それで節約できたわずかな空間は、そのわずかな分だけ世界を小さくするような印象を与えるため、地区ガバナーがさらに多くの話題やアイデアに注意を払えるということの意味しがちです。それでも一日にはやはり24時間しかないのです。ただし、来る一年に、皆さんはそれを疑問に思われるかもしれません。

ですから、ガバナーの配偶者として、皆さんは準備しなければなりません。あなたの生活の中で大切なものについて考えてください。家族、友人、キャリア、ビジネス上の関心、地域社会、コミットメント、自分の情熱、自分の夢などを考えてください。それらはどこにフィットするでしょうか。

皆さんは周囲の人たちからアドバイスを受けるでしょう。その中には、歓迎されるものもあれば、欲しくもなかった余計なアドバイスもあります。どちらなのかを区別するのが大切です。皆さんに、「あのアドバイス」をバランスよく受け止める見方を与えてくれる友人や個人的指導者がロータリーの輪の中にいることを願います。見方は大切です。たとえ私たちがどれほど円熟していて、有能で、物知りであっても、ごくつまらないことで不安の影がさす可能性があります。パスト地区ガバナーの配偶者2、3名が、善意からではあるけれども余計なアドバイスを私にくださいました。それは「仕事を辞めなさい、そんな時間はなくなるから」、そして「ロータリーの行事、なかでも特に国際協議会では、女性はスラックスではなく常にスカートをはくものよ」というものでした。私は仕事を辞めませんでした。私自身がロータリアンであって、よく分かっているはずでしたが、それでも着る服について不安になりました。スラックスのスーツを着ると本当によくないのかしら。それで、9年前、この国際協議会の最初のセッションには、自分で確かめる気でやってきました。配偶者席の最前列沿いに歩いて、「ご法度」のスラックスをはいている女性がいなか探しました。すると、そこにいた女性の半数がスラックスをはいていたのです。その方たちが皆間違っただけではなく、私が実に馬鹿げたことを気にしていたにすぎないのです。私たちはこういうことをします。自分が「正しいこと」をしていると感じたいのです。ですから、協力的で、知識のある友人からの、現状に即したアドバイスは極めて大切です。

地区ガバナーの役割には、ごく標準的な一連の活動が含まれます。クラブ訪問、地区の運営、祝賀行事、地区大会、ロータリー研究会などです。皆さんはこれらのすべてに関与するかもしれませんが、ごく一部にだけに関与するのかもしれませんが。各地区に文化があり、あなたに何を期待するかがだいたい決まっています。地区内のクラブ会長の配偶者を支援し導く活動や、ロータリーの家族全体にかかわる取り組みに関与するのもよいでしょう。どうかして、期待や願望を、自分に何ができ、何ができないかという判断と適応させる必要があります。

志はさまざまですが、皆さんには、各自の成功のものさしがあります。フィリピン第3810地区の地区ガバナー・エレクトであるジョージさんの夫、ジョン・アングさんは、先頃質問を受けて、この点に触れました。ジョンさんは今年クラブ会長を務めています。彼はこう言いました。

ジョージが公務をしている間、私は脇でクラブ役員や会員と話して彼女の親善大使役を務めます。そこから、意見やアドバイスを聞きだして、それを直接ジョージに伝えています。おそらく、必要なときはクラブの特別プロジェクトの開始式や交代式に私が出ることもできるでしょう。配偶者の100%のサポートがあれば、クラブでも地区レベルでも、ロータリー指導者の成功が保証されます。妻のために、まさにそういうふうになろうと考えています。

皆さんの第一の関係（である夫婦関係）は、真に重要な部分であり、バランスが保たれているときに最もよく機能することを私たちは知っています。この部屋に2年前に座っていたのは、ドーカス・ツスビラさん、アフリ

カ第9200地区の現在はパスト・ガバナーであるフランシスさんの奥さんです。この地区はご夫妻の母国ウガンダを含む5カ国から成ります。ドーカスさんは先頃、地区ガバナーの配偶者としての体験談を語り、そのスピーチをこの言葉で閉じられました。

年月が経つうちに、互いのコミットメントや好みを尊重しあう事が、強力でさらに深まる関係の基本的な最善策であることを理解するようになりました。

昨年、今年の協議会の司会を務めたケン・モーガンさんの配偶者ウィニー・モーガンさんも、この話題に触れました。彼女の配偶者についての問いかけは繰り返す価値のあるものだと思います。ウィニーさんは夫婦関係の占める部分と地区の期待の占める部分について話されました。

夫婦関係すなわちパートナーとの関係と地区の期待という2つの要素を考えたあげく、私はパートナーとしての人生を、最低限関与するか、非常に深く関与するか、どちらかの連続体であると思うようになりました。私は、自分の情熱をもとに、パートナーとして関与することの楽しさを皆さんにお伝えしたいと思います。

ウィニーは続いて、子供たちのために働くという自分の情熱について語り、「あなたの情熱は何ですか。あなたの情熱をロータリーと共有してはいかがですか。」と呼びかけました。

私の情熱は識字能力の推進です。ロータリーの物語を作る夢や大志の中で、こういう情熱がしばしば生まれ、開花します。予期せずにも起こることもあります。オーストラリア奥地のジェフ・バーグワンナ直前地区ガバナーの奥様のマリア・バーグワンナさんのことをお話ししましょう。マリアさんは昨年、地区の料理本を出版しました。そうしようと計画していたわけではありません。配偶者の午後のお茶で、ケーキのレシピについて何気なく雑談したこと、地区の子供たちのために何かしなければ、という思いからこのプロジェクトは生まれました。深刻な早魃に見舞われたこの地区では、子供に本を買う余裕が家庭になくなっていました。料理本の売上収益で地区の3年生全員に辞書が購入されました。喜ぶ子供たち、感謝する両親と教師、何とすばらしい成果でしょう。

情熱と夢の追求についての私の大好きな物語は、旧友グレッグ・ラッグさんのものです。グレッグさんの奥様のヘレンさんは、私と同じ時期にロータリーに入会しました。お二人は大変な旅行家で、セーリングもお得意でした。グレッグさんは、遠い太平洋の島々に住む子供たちが夜勉強しようとしてどんなに苦労しているかを直接知っていました。小さな村々では電気は希少です。ベンゼン灯や囲炉裏が普通使われています。ランプを倒したり、あるいは躓いて囲炉裏に落ちたりすることで、子供が大火傷を負い、それが一生残る傷跡となるのを彼は見てきました。グレッグさんは、子供たちが安全な照明の下で勉強できる日が来るのを夢に見ました。この島々はヨットによく似ています。孤立していて、巨大な海に浮いており、自給自足しなければなりません。ようやく新しい技術が解決策をもたらしました。廉価の海洋太陽光照明システムです。それで、ロータリーに入会し、クラブの国際プロジェクトに参加して、グレッグさんは自分の夢の第一ステップを実現しました。太陽光は安全です。持続可能なエネルギー源です。そして今、島の子供たちは安全に夜遅くまで勉強することができるようになりました。グレッグさんは夢を見ることを止めていません。まだ、毎晩、子供の安全が危険な炎によって脅かされている村が何千もあるのです。ですから、まだまだロータリーが奉仕する機会が残っています。

この協議会では、世界を「より良い場所」にする活動に参加している感銘深い人々に会うことでしょう。また、超我の奉仕と具現するコミットメントとこの奉仕の機動力となる情熱についてお聞きになるでしょう。プロジェクトや奉仕の多くのアイデアにも触れるでしょう。それを皆さんのパートナーと共有してもよく、地区に持ち帰って他の配偶者と共有してもよいでしょう。あなたにも違いを作ることができます。

あなたはロータリーについてより深く知り、人々についてある見方を得て帰路につきます。この見方によって、最低でも、あなたの地区ガバナーと地区の人々が来年度行う活動に対し、もっと意味を見出すことができるようになるでしょう。この知識は大変強力な道具です。ごく些細な行動にも影響力はありますから、ご自分のとる行動の1つひとつがロータリーの進歩と発展に影響を与えます。

このスピーチの結びに私の最も尊敬する人の一人、エレノア・ルーズベルトの言葉を引用したいと思います。前世紀半ばにフランクリン D. ルーズベルト米国大統領夫人として、人権のため、恵まれない人々の生活状態の改善のために尽力しました。彼女の最も偉大な実績は、世界の舞台上、世界人権宣言を作成した国連委員会の委員長を務めるよう依頼を受けたときだと思えます。夫人はこう言いました。

結局のところ、人権はどこに始まるのでしょうか。小さな場所、家庭に近いところで。あまりに身近であまりに小さいため、世界地図では見つけられません。しかし、それは個々の人間の世界であり、自宅の近所であり、勉強している学校や大学であり、働いている工場や農場、事務所です。これらの場所で、すべての男女子供たちが差別のない平等な正義、平等な機会、平等な尊厳を望んでいるのです。人権がこれらの場所で意味をなさないなら、それ以外の場所ではほとんど何も意味しません。家庭に近い場所で、このような人権を支持する市民の一致団結した行動がなければ、大きな世界での進歩を目指しても徒労に終わるでしょう。

ロータリーでは世界平和と理解について話します。大胆で、圧倒的でさえある概念です。こういう概念が、「家庭に近い」一人のロータリーの配偶者に何か意味を持っているのでしょうか。はい、持っています。あなたもエレノア・ルーズベルトのように、出会う一人ひとりを敬うことができます。そういうところで、私たち一人ひとりが違いを作ることができるのです。一度に一人ずつ、1つずつ、そして一歩ずつ。

ロータリーの配偶者としての皆さんの取り組みが、より良い世界への歩みの一部となりますように。皆さんお一人おひとりがパートナーとの素晴らしい関係で、来年度に地区を導くことができますように。そして、ロータリー配偶者としての正式な職務がたとえなくとも、皆さんの取り組みは、感銘を与えるものであり、ロータリー家族に属する私たち全員に非常に重要なものであるということをどうか忘れないでください。

# 貧困を知ろう、 一人ずつ子どもの生活を変えていこう

ディーパ・ウィリンガム  
元ロータリー・クラブ会長

少し前の言葉の引用でお話を始めたいと思います。「貧困は革命と犯罪の親である」というのはアリストテレスの言葉です。この言葉が当時と同様に現代にも当てはまるというのは驚異的です。

貧困。貧困とは何でしょうか。この部屋にいらっしゃる皆さんにこの言葉が何を意味するかを尋ねると、さまざまな定義が返ってくるでしょう。たとえば米国での貧困は、アフリカでの貧困と同じでしょうか。答えはノーです。

ジェフリー・サックス博士は著書「The End of Poverty」で貧困を大きく3つに分類しています。この3つの分類について、皆さんにご紹介したいと思います。極度の貧困、中度の貧困、そして相対的貧困です。皆さんに分かりやすいようにサックス博士の定義を図に表してみました。(グラフを指して) 平たい丸が社会を示し、はしごは人々が次のレベルに到達するために必要なステップを表すとします。この丸(社会)が提供するサービスや基本的ニーズへの対応が少なければ少ないほど、はしごは狭くなります。すなわち、はしごを登ることはおろか、最初の段にさえ足が届きそうにない人が増えるということです。ここで、(極度の貧困から中度の貧困への) はしごが狭くなるだけでなく、はしごの段数も増えることにご注意ください。つまり、登るのが難しくなってしまうのです。

では、極度の貧困の定義はどのようなものでしょうか。それは、一日1ドルか2ドル未満で生活している人々です。住むところはないか、あっても最低限です。衣服もなく、食べ物もあまりありません。自分たちも子供たちも慢性的に空腹です。医療を受けられず、衛生設備もなく、きれいな水もなく、子供たちの受けられる教育もありません。また銀行から融資を受ける資格もありません。だからこそ、ムハマッド・ユヌス博士のグラミン銀行の働きが非常に素晴らしいのです。彼は極貧状態の人々に、誰も与えない銀行融資を提供しました。これらの極めて貧しい生活をしている人々について覚えておくべき最も大切なことは、彼らが心にまったく希望がない状態で生活しており、自分の運命に対する発言権も自分の将来を決める力もないということです。そして悲しいことは、彼らの社会が保護策を何も講じないことによって、彼らの期待を完全に裏切っていることです。この種の貧困は、アフリカや南アジアの多くの地域にあるほか、もちろん、世界の他地域にも点在しています。

時間の都合上、中度の貧困と相対的貧困については手短にご説明します。中度の貧困では、人々は一日2ドルから3ドルで生活しています。社会は何らかの基本的ニーズに対処しますが、ごくわずかです。ほとんどが中南米の国々に見られます。相対的貧困は、ここ米国や他の先進国にある状況です。この国では、貧困は、4人家族が一日に50ドルから60ドル以下で生活する状況として米国政府により定義されています。しかし、興味深いのは、この国では社会が基本的に必要なものをすべて提供しているのにもかかわらず、この貧困分類の人々はここから抜け出て、中流の下層に到達することができないという点です。

以上の貧困のレベルについての基礎的理解をもとに、極度の貧困ゆえに今日の世界に存在する状況について、憂慮すべき数字を見てみましょう。

- 一日1ドル未満で生活する人々が13億人います。
- 世界人口の6分の1は読み書きの能力がありません。
- 衛生設備やきれいな水のない人が26億人います。
- 学校に行ったことのない子供が1億四千万人います。
- 毎年、一千万人の子供たちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなります。
- 毎年250万人以上の子供たちが武力闘争で死亡するか、あるいは兵士として徴集されます。
- 200万人以上の子供たちが、そのほとんどが少女ですが、毎年売春のため、あるいは奴隷として売られます。国際的な組織犯罪の中で、これは最も急速に増加しているビジネスです。

こういった痛ましい数字でみなさんを圧倒したので、皆さんは、おそらく「私に何ができるのだ。一介の人間なのに」と思っていらっしゃるでしょう。友人の皆さん、ここに「一人の力」というものがあります。私もたった一人の人間です。私も、こういった数字に圧倒されています。悲しみで心が痛みます。しかし、私は、自分の仕事をする事、それがどんなに小さくても、自分の分をすることで、違いが生めることを知っており、またそう信じています。

南カリフォルニアの田舎町のただのロータリアンである私は、PACE Universalという組織を結成するよう心を動かされました。PACEはPromise of Assurance to Children Everywhereの頭文字です。2つのシンプルな使命を掲げて2003年に発足しました。それは、PACEが、カルカッタのスラム街の少女を対象とする、また世界の他の貧困地域を対象とする教育、栄養、保健、社会開発プログラムとなること、そして、他のモデルとなる初のPACE学習センターの原型を建設するということです。

開始したときには、初年度は25人の少女だけにプログラムを提供するつもりでした。6カ月経たないうちに、80人がプログラムに参加していました。現在は借りた施設で、110名の少女を指導しています。順番待ちの少女が200人以上います。土地を購入して、原型となる最初の学習センターの場所となる恒久的な建物を建てる計画があります。私たちのインドのパートナーは、カルカッタ・メトロポリタン・ロータリー・クラブです。恒久的な建物の建設により、パートナーと私たちは、1200人の女兒と500人の男児に教育を提供したいと思っています。

この初のセンターは、カルカッタ校外の貧しい村ピヤリ・ジャンクションに位置し、ピヤリ学習センターと命名される予定です。識字能力、きれいな水、衛生設備、太陽光オープンを地域社会にもたらします。また建物内に、診療所と歯科診療所、コンピュータ学習センター、職業訓練所、マイクロクレジット・センター、現地サービスセンター、ボランティア奉仕センターが備えられます。センターの目的は、現在一日1ドル未満で生活しているピヤリ・ジャンクションの住民の生活に、持続可能な変革をもたらすことです。私たちの目標は、彼らが10年のうちに、はしごの3段目か4段目に到達できるよう援助することです。過去4年間で、学校の存在によって、多くの良い変化が地域社会に起こりました。来年度は、地域社会の随所に、きれいな水の得られる井戸、衛生設備、太陽光オープンを整備し、私たちのロータリー財団に大型の国際ロータリー保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金を申請する計画です。

ピヤリ・ジャンクションで学んだ教訓は、私の所属するロータリー第5240地区で、試験的研究を実施する指針ともなっています。この研究は、メキシコのバックアロ郊外の村で行う予定ですが、同様の複数段階・複数年のアプローチをとり、私の地区のロータリアンが資源を集めて、識字能力(特に中等教育)、きれいな

水、保健サービス、太陽光オープン、職業訓練、マイクロクレジット（小口融資）を一日2ドルから3ドルで生活しているこの地域社会の住民にもたらすことになります。

ですから、友人の皆さん、このロータリアンの行動は、一人の力がいかに作用し、一度に子供一人ずつ、地域社会1つずつ、村1つずつ変えることができるかを示す格好の実例です。ところで、私もロータリアンの配偶者であり、ロータリアンの母です。夫はヒューストン大学地域ロータリー・クラブの会員であり、娘はカリフォルニア州で地域社会をベースとするサンタバーバラ・ローターアクト・クラブを結成しました。

私はこの旅を始めるにあたり、自分が世界のどこかで小さな火を灯せば、その炎に心を動かされて他の人々も同じことをしてくれると信じていました。そして間もなく、小さな炎が重なって大きなかがり火となり、私たちは、人間として容認すべきでない不公平なもの、すなわち極度の貧困の存在を根絶することができるのです。

# 2008 2009



ROTARY INTERNATIONAL®

One Rotary Center | 1560 Sherman Avenue | Evanston, Illinois 60201 | USA